

# VOX

Valvetronix

# ToneLabSE



## 取扱説明書

# 安全上のご注意




ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには



図記号の例

	△ 記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的は注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止してはいけないことを示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。



以下の指示を守ってください

## 警告


この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

-  AC/AC パワーサプライのプラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。
- AC/AC パワーサプライのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、AC/AC パワーサプライのプラグへ容易に手が届くようにする。
-  次のような場合には、直ちに電源を切って AC/AC パワーサプライのプラグをコンセントから抜く。
  - AC/AC パワーサプライが破損したとき
  - 異物が内部に入ったとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最

寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへ修理を依頼してください。

-  本製品を分解したり改造したりしない。
-  修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- AC/AC パワーサプライのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、AC/AC パワーサプライのコードの上に重いものを乗せない。コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
- 万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。


 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。

-  雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に液体の入ったもの(水や薬品等)を置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。

 濡れた手で本製品を使用しない。

## 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

-  正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。

- ・ AC/ACパワーサプライをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。



- ・ 長時間使用しないときは、AC/ACパワーサプライをコンセントから抜く。



- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしていない。

本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- ・ スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。

故障の原因になります。

- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。

- ・ 不安定な場所に置かない。

本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

- ・ 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。

- 4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターまでお問い合わせください。

- 5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめ最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへご相談ください。運送にかかる往復の費用はお客様の負担とさせていただきます。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

VOX Valvetronix ToneLabSE	<b>保証書</b>
本保証書は上記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げ日から満1年の間に万一故障が発生した場合は、お買い上げの販売店に製品と本保証書をご持参の上、修理を依頼してください。	
お買い上げ日	年 月 日
販売店名	

## データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリ内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはMIDIデータ・ファイラーなどに保存しておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間は、お買い上げ日より1年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
  - ・ 消耗部品(スピーカー、真空管、電池など)の交換。
  - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
  - ・ 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
  - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
  - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
  - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
  - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

## アフターサービス

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海  
5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内  
TEL 03(3799)9085  
名古屋営業所: 〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町  
100-51 TEL 052(832)1419  
大阪営業所: 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1淀川  
5番館7F TEL 06(6374)0691  
福岡営業所: 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25  
第2池田ビル1F TEL 092(531)0166

輸入販売元: KORG Import Division  
〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12  
URL: <http://www.korg.co.jp/KID/>

- \* Valve Reactor技術は米国特許を取得しています。他国特許申請中です。(2003年3月現在)
- \* 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- \* MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

## クイックスタート

— 「説明は後にして、とにかくギターを弾かせて!」と言いたい人のためのガイド —

取扱説明書を読むのは塗ったペンキが乾くのを待つときのように「あくび」が出てしまう、という人もきっと多いことでしょう。そこで、ToneLabSEを一刻も早く使ってみたい人のためにこのクイックスタートを用意しました。

早速、ToneLabSEのサウンドをチェックしてください。そして、モデル・セレクト・セクションのセレクターやスイッチ、ボリュームツマミを操作して音作りの最初の一步に踏み込みましょう。

**HINT** 本書にはToneLabSEを最大限に活用する上で役に立つ説明が載っています。このクイックスタートの手順のように弾いて、とりあえずホッとしたら、必ず本書の残りをお読みください。

**HINT** 本書の巻末にToneLabSEのトップ・パネル、リア・パネル、ディスプレイの図がありますので、そちらを見ながら操作してください。

### セットアップ

1. ToneLabSEをミキサーやレコーダーに接続するときは、OUTPUT端子L/MONO, Rをミキサーやレコーダーの入力端子に接続します。またヘッドホンでモニターするときはPHONES端子にヘッドホンを接続します。

ToneLabSEをライブなどでギター・アンプと接続して使用するとき、OUTPUT端子 L/MONO, Rを、ギター・アンプの入力端子に接続します。

**NOTE** 出力先の入力端子がモノラルの場合は、OUTPUT端子L/MONOを接続してください。

**HINT** 図はリア・パネル[9]周辺をご覧ください(本書巻末)。

2. 本機のリア・パネルの[LEVEL]ツマミを、リア側から見て左に回し切り、ボリュームを0にします。
3. 付属のAC/ACパワー・サプライをリア・パネルのAC9V電源端子に接続してから、プラグをコンセントに差し込みます。
4. ギターをリア・パネルの[INPUT] (インプット) 端子に接続します。
5. [STANDBY]スイッチをオンにして電源を入れます。(電源立ち上げ時にノイズが聞こえないようにアンプやミキサーの音量は十分に下げておいてください。)
6. ミキサーやレコーダーに接続したときは、[GLOBAL]スイッチを押して、OUT SELメニューを選び、ボリュームツマミ[6]または[▲][▼]スイッチで Ln (LINE)に設定します。ギターアンプに接続した場合は“ AP (AMP)に設定します。
7. アンプやミキサー、本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミを適宜上げて、音量を調整します。

**NOTE** 真空管が温まるまでの数秒間、音が出ない場合があります。これは故障ではありません。

## プログラムのサウンドを聴く

8. BANK [UP]または[DOWN]ペダルを押してバンク1～24を選びます。

バンク・ディスプレイ(5.1)の数字が点滅し切り替わるのが確認できます。

**HINT** ToneLabSEは96プログラムがあり、24バンクにそれぞれ4プログラム(24x4=96)を持ちます。工場出荷時には1～8バンクに32のプログラムが収録されています(9～16、17～24バンクのプログラムは1～8バンクのプログラムと同内容です)。これらはプログラム・セレクト・モードで選択することができます。この他、エフェクトON/OFFモードがあり、個々のエフェクトをオン/オフできます。

**HINT** 図はリア・パネル[3]「バンク/プログラム/チャンネル/セレクト/ディスプレイ・セクション」をご覧ください(本書巻末)。

9. プログラム・セレクト [1]～[4]ペダルを押してプログラムを選びます。

選んだプログラムLEDが点灯し、バンク・ディスプレイの数字も点灯に変わります。これでプログラムが選択できました。ギターを弾いてください。

例えば3-1(バンク3、プログラム1)のプログラムを選ぶには、BANK[UP]または[DOWN]ペダルを押してバンク・ディスプレイに「3」を表示し、プログラム・セレクト [1]ペダルを押してLEDを点灯させます。

なお、同じバンクのプログラムはプログラム・セレクト [1]～[4]ペダルを押すだけで切り替わります。他のバンクのプログラムを選ぶ場合は、手順8、9の順番で選びます。

**NOTE** プログラムを選ぶことができない場合は、プログラム・セレクト・モード以外が選ばれています。「プログラム・セレクト・モード」(p.15)を参照してモードを切り替えてください。

**HINT** プリセット・プログラムには、ファットで高ゲインの弾きやすいリードギター・サウンドや、フロント(またはリズム)・ピックアップに最適な瑞々しいクリーンなサウンド、またギターのリード(ブリッジ)・ピックアップにヘヴィーなりフがピットリなファットで攻撃的なモダン・クランチ・サウンドなど、さまざまなプログラムが入っています。プリセット・プログラムのリストはp.71をご覧ください。

10. 2つのエクスプレッションペダルには、ワウやボリューム、ディレイ、リバーブへの入力レベル、その他エフェクトのパラメータなど、各プログラム毎に最適な効果がアサインされています。また、[CONTROL]ペダルには、ディレイタイムのTAPテンポ入力機能などがアサインされています。
11. [A/B Ch]ペダルを押すと、各プログラム毎に A/B にそれぞれ設定されているアンプモデルとキャビネットモデルが瞬時に切り替わります。
12. [FX ON/OFF(TUNER)]ペダルを押すと、エフェクトON/OFFモードに切り替わります。エフェクトON/OFFモードでは、コンパクト・エフェクターを操作する感覚で、個々のエフェクトをON/OFFできます。プログラム・セレクト[1]～[4]がそれぞれペダル、モジュレーション、ディレイ、リバーブの各エフェクトのON/OFFに対応し、BANK[DOWN]ペダルがインサート・エフェクトのバイパスに対応します。

## エフェクトのON/OFF

13. 各エフェクトのON/OFF状態は、モデル・セレクト・スイッチの点灯状態で確認できます。点灯しているエフェクトはON、消灯しているエフェクトはOFFです。消灯しているスイッチを押すか、モデル・セクターを回すとエフェクトがONになり、モデル・セレクト・スイッチが点滅状態になります。点滅しているスイッチを押すとエフェクトがOFFになり、スイッチが消灯します。

## 音作りをする

14. 音作りは[MODEL]セクター、[MODEL]セレクト・スイッチ、バリュートツマミ[1]～[6]、を使用します。

AMP モデルの音作りをするには、[AMP]セクターで、16種類のアンプモデルの中から、好みのアンプモデルを選んでください。アンプ・モデルのエディット操作は、あなたが慣れ親しんでいるギター・アンプでサウンドを変化させるのとあまり変わりません。

[GAIN]バリュートツマミ[1]、[TREBLE]バリュートツマミ[3]、[MIDDLE]バリュートツマミ[4]、[BASS]バリュートツマミ[5]、や、MASTERにあたる[VR GAIN]バリュートツマミ[2]などを適宜調整していきます。ベストなひずみを得るには、できるだけ[VR GAIN]を上げることです。[CH VOLUME]バリュートツマミ[6]はValve Reactorのひずみなどを含むトータルなサウンドを維持したまま音量を変化させます。

[PRES-NR]スイッチを押すと、バリュートツマミ[3]でPRESENCEを、バリュートツマミ[4]でNR(ノイズリダクション)の効果进行调整することができます。

[AMP MODEL]、[CABINET MODEL]セクターでタイプを変えることは、突然目の前に異なるギター・アンプが現れるかのようです。ToneLabSEでは、プログラム毎に2種類のアンプモデルとキャビネットモデルの組み合わせをメモリーすることができ、[A/B ch]ペダルで瞬時に切り替えることができます。

**HINT** アンプ・モデルとキャビネット・モデルとの推奨する組み合わせ例はp.33をご覧ください。

**HINT** オリジナル・アンプのサウンドを再現する場合、マスター・ボリューム・コントロールがないピンテージ・タイプのモデル(AC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK 68P、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10)では[VR GAIN]を最大に上げてください。マスター・ボリューム・コントロール付きのモダン・タイプのモデルではマスター・ボリューム・コントロールを調整するのと同じように[VR GAIN]を調整します。[VR GAIN]の設定が低いときはリアンプ・タイプのディストーションがかかり、高く設定するとValve Reactorのひずみと暖かみが増加します。

**HINT** 図はトップパネル $\square$ 周辺をご覧ください(本書巻末)。

15. エフェクトは、アンプの前に配置されているPEDALエフェクトと、キャビネットの後に配置されているMODULATION、DELAY、REVERBの各エフェクトがあります。

例えばPEDAL エフェクトのTREBLE BOOSTを使用する場合、[PEDAL]セレクターを回してTREBLE BOOSTを選びます。このときエディット・セクションの PEDALパラメータLEDが点滅してパラメータ・ライン(パラメータ名の書かれた帯)を示します。またボリュームツマミ下のLED が点灯し、TREBLE BOOSTで使用可能なツマミ位置を示します。この状態でボリュームツマミ[1]、[2]、[3]を回すと、DRIVE、LEVEL、TONEがそれぞれ調整できます。他のエフェクトも同様の操作で調整できます。

**HINT** エフェクトの設定によっては出力音にひずみが生じる場合があります。この場合、CH VOLUMEを下げて調整してください。

**HINT** 図はトップパネル<sup>2</sup>周辺をご覧ください(本書巻末)。

---

# 目次

---

クイックスタート .....	iv
セットアップ .....	iv
プログラムのサウンドを聴く .....	v
エフェクトのON/OFF .....	vi
音作りをする .....	vi
はじめに .....	1
ようこそ! .....	1
おもな特長 .....	1
Valve Reactor (バルブ・リアクター) 技術について .....	3
ToneLabSEの概要 .....	4
信号経路 .....	4
モード .....	4
アンプやエフェクトの設定( エディット ) .....	4
エクスプレッション、コントロールペダルによるリアルタイムコントロール .....	4
プログラムの保存 .....	4
MIDI や出力先の設定 .....	4
ギタリストのためのパネル・ツアー( 各部の名称と機能 ) .....	5
トップ・パネル .....	5
モデルセレクト・セクション .....	5
エディット・セクション .....	7
チェイン/グローバル/リネーム/ライト/イグジット/ディスプレイ セクション .....	7
コントロールセットアップ セクション .....	9
バンクディスプレイ、チューナーディスプレイ .....	9
バンク/ プログラム/ チャンネル/ セレクト セクション .....	9
[FX ON/OFF ]エフェクトオン・オフ ペダル .....	10
エフェクトコントロール セクション .....	10
バルブ .....	10
リア・パネル .....	11
電源 .....	11
インプット .....	11
MIDI .....	11
セットアップ .....	12
接続先の設定 .....	12
基本接続 .....	12
ライン録音で使用する場合 .....	13
ミキサー、レコーダー接続例 .....	13
ライブで使用する場合 .....	14
ギター・アンプ接続例 .....	14
MIDI機器/コンピュータを使用する場合 .....	14



演奏する .....	15
プログラム・セレクト・モード .....	15
プログラムを選ぶ .....	15
エフェクトON/OFFモード .....	15
エフェクトのON/OFFを切り替える .....	16
A/Bチャンネルのホールド .....	16
キーロック機能の設定 / 解除 .....	17
キーロック機能の設定 .....	17
キーロック機能の解除 .....	17
音作りと保存 .....	18
音作りをする .....	18
エフェクトの接続順序を変更する(CHAIN) .....	20
プログラムに名前を付ける .....	20
プログラムを保存する .....	21
プログラムに保存した値を確認する(オリジナル・バリュー) .....	21
アンプ / エフェクト・タイプの説明 .....	22
A. AMP(アンプ)モデル .....	22
B. CABINET(キャビネット)モデル .....	31
アンプとキャビネットの組み合わせ例 .....	33
C. PEDAL(ペダル)エフェクト .....	34
D. MOD(モジュレーション)エフェクト .....	38
E. DELAY(ディレイ)エフェクト .....	43
F. REVERB(リバーブ)エフェクト .....	46
チューナー(バイパス、ミュート) .....	48
チューニングの方法 .....	48
チューナーのキャリブレーション調整 .....	49
エクスプレッション・ペダルによるコントロール .....	50
エクスプレッション・ペダルの設定 .....	50
エクスプレッション・ターゲットのクイックアサイン .....	50
エクスプレッション・ターゲットの設定 .....	51
エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定 .....	53
コントロール・ペダルの設定 .....	53
各エフェクトのON/OFF .....	53
TAP TEMPO によるパラメータの設定 .....	53
FACTOR バリュースマミ[2]の設定 .....	54
エフェクトのコントロール .....	54
ペダルの感度の調整 .....	55
エクスプレッション・ペダル1 .....	55
エクスプレッション・ペダル2 .....	55

---

MIDIによるコントロール .....	56
MIDI機器 / コンピュータとの接続 .....	56
MIDIチャンネルを設定する .....	57
プログラム・チェンジ .....	57
コントロール・チェンジ .....	57
パラメータ・チェンジ .....	58
プログラム・データのバックアップ(保存) / リストア(読み込み) .....	59
バックアップ(保存) .....	59
リストア(読み込み) .....	60
工場出荷時の状態に戻す(再ロード) .....	61
故障とお思いになる前に .....	62
1. [STANDBY]スイッチをオンにしても電源が入らない .....	62
2. 音が出ない .....	62
3. エフェクトがかからない .....	62
4. ACOUSTICの使用中に高音が歪む .....	62
5. ギター・アンプに接続した音が歪む、不自然な音とする .....	62
仕様 .....	63
プログラム・リスト .....	64

# はじめに

## ようこそ!

このたびは **VOX Valvetronix ToneLabSE**をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
ToneLabSEはレコーディングからライブ、またはヘッドホンでの練習まで幅広い用途でお使いいただけます。チューブアンプをモデリングしたその暖かみと調和のとれたサウンドをお楽しみください。本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保管してください。

## おもな特長

- ToneLabSEは、Valve Reactor技術を採用し、通常プリアンプで使われている小型3極真空管 12AX7(ECC83)を使ったClass A、Class ABのパワーアンプ回路を搭載することによって、「本物のパワーアンプ・サウンド」を作り出し、オリジナル・アンプの感触やトーンを生み出します。
- 高度なモデリング・テクノロジーによるアンプ、キャビネット、エフェクトを搭載しています。  
往年のヴィンテージ・アンプや高価なハイエンド・チューブアンプなどのサウンドを、アンプ・タイプ16、キャビネット・タイプ11で再現できるほか、組み合わせによってはいままでにないアンプ・サウンドを作り出すことも可能です。
- ハイクオリティなエフェクトを内蔵し、ToneLabSEだけで音作りが完結できます。アンプの手前にペダル・エフェクト16タイプ、キャビネットの後ろにモジュレーション・エフェクト、ディレイ・エフェクト、リバーブ・エフェクトを各11種類持ち、各タイプごとに1つずつを同時に使用できます。その他ノイズ・リダクションが使用できます。
- アンプやエフェクト・モデルを駆使したサウンドを1プログラムとして、96個のサウンドをプログラムとして保存することができます。プリセットとしてあらかじめ32種類のプログラムが用意されています。
- 1プログラム毎に2種類のアンプモデル、キャビネットモデル、ノイズリダクションの組み合わせをメモリーすることができ、[A/B ch]ペダルで瞬時に切り替えることができます。
- オート・クロマチック・チューナーを内蔵し、チューニングが可能です。
- ワウ・ペダルやボリューム・ペダル、他にもさまざまなエフェクトのパラメータをコントロールできる2つのエクスペッションペダルを装備し、ライブ・パフォーマンスなどに威力を発揮します。
- エクスペッションペダルへワンタッチで簡単にパラメータを割り当てられるクイックアサイン機能を搭載しました。

- 
- ・ ディレイタイムのTAP TEMPOによる設定や、インサート・エフェクトのON/OFF、ロータリースピーカーの回転スピードの切り替えといった、さまざまなエフェクトのコントロールが可能なコントロールペダルを装備し、ライブ・パフォーマンスなどに威力を発揮します。
  - ・ エフェクト・インサートにより、外部エフェクトを接続し使用することができます。
  - ・ MIDI IN、OUT端子を装備し、拡張性に優れています。
  - ・ ToneLabSEのさまざまなパラメータを視覚的に編集したり、プログラムの保存、管理などが行えるエディタ/ライブラリアン・ソフトウェア「ToneLabSE Sound Editor」を使用することができます。入手方法や動作環境等の詳細については、コルグお客様相談窓口にお問い合わせください。

なお、下記のWebサイトにてダウンロードすることができます。

\* <http://www.korg.co.jp/KID/VOX/>

<http://www.voxamps.co.uk/>

## Valve Reactor (バルブ・リアクター) 技術について

バルブ・リアクター技術とは、VOXアンプAD60/120VTではじめて採用された技術です。

ToneLabSEは、このValve Reactor回路をライン接続用にチューン・アップしたシステムを搭載しています。

通常のライン接続用のモデリング・エフェクターは、実際には直接スピーカーを接続して使用することが無いため、パワーアンプ回路、OUTPUTトランスおよびスピーカーは搭載していません。つまり、プリアンプ回路のみによって構成されています。

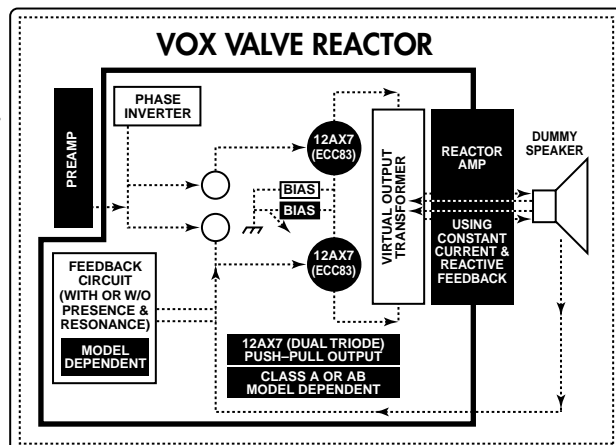
ところが、本当のチューブアンプ・サウンドは、プリアンプのみでなくパワーアンプの歪みや、実際にパワーアンプがスピーカーを駆動した際に発生するインピーダンス変動によって作り出されます。

ToneLabSEは、実際に低いワットテージのチューブ・パワー・アンプ回路と、OUTPUTトランスをソリッドステート部品でエミュレーションしたバーチャルOUTPUTトランス(特許出願中)、それにスピーカーのインピーダンス変動をシミュレーションしたダミースピーカー回路を搭載しています。つまり、出力パワーは小さいながらも、実際のフル・チューブアンプと同じ回路構成になっています。

音作りとトーン・シェーピングのほとんどはデジタル領域で行いますが、Valve Reactorパワーアンプは100%アナログです。ギター信号がアナログ領域であるパワーアンプ段を通過することによって、モデルとなったオリジナル・アンプの感触やトーンを作り出す上で重要な役割を果たすことになります。Valve Reactorのパワー段は真のチューブ、プッシュ/プル式パワーアンプのミニチュア版です。これは12AX7(ECC83)チューブ(デュアル三極管、つまり2つの真空管を一つにしたもの)を使用し、出力トランスフォーマーを搭載した真のチューブアンプと似ているといえます。

ToneLabSEのValve Reactorパワーアンプの出力は、内蔵のダミースピーカー回路の絶えず変化しているインピーダンス曲線を「読み取り」、この情報をバーチャルOUTPUTトランスフォーマーにフィードバックするように設計されています。この点も実際のチューブアンプと似ています。この情報によってアンプのチューブ段での動作がスピーカー負荷(インピーダンス)に応じて変化します。これもまた、真のチューブアンプのサウンドを形成する大切な要因となっています。

生き生きとしたチューブサウンドを生み出すだけでなく、モデルとなったアンプのフル・チューブ・パワー段に独特の「様々な回路特性」をシミュレートすることができます。この特性とは、A級、AB級、プレゼンス、レゾナンス(ロー・エンド)回路(いずれも一部チューブアンプの持つ負帰還回路に見られるもの)、パワー出力などです。このような特性を調整することにより、アンプ・モデルの一つ一つのサウンドが忠実に再現できるのです。この点が、「あのサウンドに近いけどやっぱり本物じゃない」という巷のデジタル・モデリング製品とは異なる部分です。米国特許取得済みのこのパワーアンプ技術はVOX Valvetronixだけのものです。



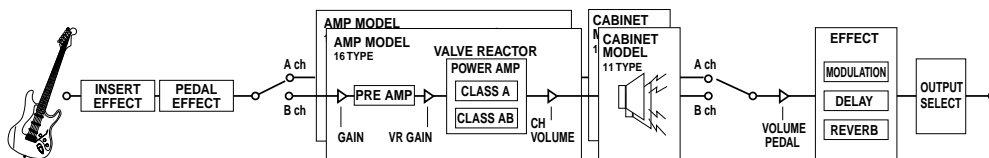
# ToneLabSEの概要

ToneLabSEの全体像を確認しておきましょう。

## 信号経路

ToneLabSEに入力された信号は以下の順序で通過していきます。

「ギタリストのためのパネル・ツアー(各部の名称と機能)」(p.5)の説明と照らし合わせてご覧ください。



## モード

ToneLabSEには、プログラムを切りかえるためのプログラム・セレクト・モードと、個々のエフェクトをON/OFFするためのエフェクトON/OFFモードがあります。これらのモードは演奏中であってもFX ON/OFFペダルによって瞬時に切り替えることができます。

## アンプやエフェクトの設定(エディット)

6つのモデルセクターと6つのパリューツマミ、スイッチなどを使って直感的にアンプやエフェクトの設定を変更できます。CHAINスイッチを使って、モジュレーション、ディレイ、リバーブの各エフェクトを接続する順序の設定を変更できます。アンプ、キャビネット・モデルは、A,B2つのチャンネルを設定し、演奏中に切り替えることができます。

## エクスペッション、コントロールペダルによるリアルタイムコントロール

2つのエクスペッション・ペダルとコントロール・ペダルによって、ワウ、ボリューム、エフェクトパラメータを足元でコントロールできます。コントロール対象の設定はEXPRESSIONスイッチ、CONTROLスイッチを使います。

## プログラムの保存

アンプやエフェクト、エクスペッションなどの設定をまとめて1つのプログラムとして保存できます(WRITE スイッチ)。保存するにはRENAMEスイッチを使ってプログラムに名前をつけておくと便利です。保存したプログラムはプログラム・セレクト・ペダルで瞬時に呼び出すことができます(プログラム・セレクト・モード時)。

## MIDIや出力先の設定

GLOBALスイッチでは、MIDIに関する設定やToneLabSEの接続先の設定を行いません。ここでの設定は、自動的にToneLabSE内部に保存されるのでWRITE操作は不要です。

# ギタリストのためのパネル・ツアー (各部の名称と機能)

ここではToneLabSEのトップ、リア・パネル上のスイッチや端子類について説明します。

**HINT** 巻末にToneLabSEのトップ・パネル、リア・パネル、ディスプレイの図が載っていますのでご覧ください。

## トップ・パネル

### ① モデルセレクト・セクション

アンプやエフェクトのモデルの選択を行ないます。

#### 1.1 [MODEL](モデル)セレクト・スイッチ

バリュウ・ツマミ[1]～[6]でエディットするエフェクトカテゴリーを選ぶとき、エフェクトのON/OFFを切りかえるときに使用します。使用しているエフェクトがONの場合は点灯(エディット時は点滅)、OFFの場合は消灯します。

一度押すとスイッチのLEDが点滅し、そのエフェクトのパラメータをバリュウ・ツマミ[1]～[6]で調整できます。

ONになっているエフェクトをOFFにしたい場合は、対象となるエフェクトの[MODEL]セレクト・スイッチを一度押し(点滅)、さらにもう一度[MODEL]セレクト・スイッチを押すとOFF(消灯)になり、ネームディスプレイに[ --OFF-- ]が表示されます。

ペダルエフェクトはアンプ・モデルの前に配置されています。

モジュレーション、ディレイ、リバースは、キャビネット・モデルの後ろに配置されています。

**NOTE** キャビネットの[MODEL]セレクト・スイッチが点滅しているときは、アンプ・モデルのパラメータをバリュウツマミで調整します。

**NOTE** アンプ、キャビネットの[MODEL]セレクト・スイッチは選択したチャンネルによって色が変わります。チャンネルA選択時には緑、チャンネルB選択時には赤に点灯(点滅)します。

**NOTE** モジュレーション、ディレイ、リバースをペダル・エフェクトのようにアンプの前に置かず、後ろに配置している理由は、そのほうがサウンドもリアルで良く聞こえるためです。たとえばリバース・エフェクトはコンサートホールや部屋で生じるサウンド効果をシミュレートしたものです。このため、残響効果を生み出すには、信号経路の終わり近くで加えたほうがリアルで自然になるはずですが、ディレイやモジュレーション・エフェクトも、やはり信号経路の最後に加えた方が自然です。また、クランチ・サウンドやハイ・ゲインのリード・サウンドを弾く場合、ROTARY、ROOMリバース、DELAYなどは信号にディストーションをかけてから加えた方が理にかなっています。

#### 1.2 [INSERT](インサート)スイッチ

エフェクトインサートのON/OFFを切りかえるときに使用します。外部エフェクトへの信号の入出力がONの場合は点灯、OFFの場合は消灯します。外部エフェクトはペダルエフェクトの前に配置されます。

---

### 1.3 [PRES-NR](プレゼンス/ノイズリダクション)スイッチ

アンプのプレゼンスやノイズリダクションの設定を変更するときに使用します。このスイッチが点滅しているときは、バリュースツマミ[3]でプレゼンスの設定を、バリュースツマミ[4]でノイズリダクションの設定を変更することができます。チャンネルA選択時には緑、チャンネルB選択時には赤に点灯(または点滅)します。

### 1.4 [PEDAL](ペダル)セレクター

ペダル系エフェクトを16種類のペダル・エフェクト・モデルから選びます。[PEDAL]セレクターを操作すると[PEDAL]セレクト・スイッチが点滅し、バリュースツマミ[1]～[6]でペダル・エフェクトのパラメータが調整できます。(詳細はp.35～を参照してください。)ペダル系エフェクト(PEDAL)は、アンプの前に接続されます。

**NOTE** エフェクトのタイプを変えると、パラメーターが初期化されます。

### 1.5 [AMP MODEL](アンプ・モデル)セレクター

伝説的なVOX AC30TBXをはじめとするクラシックなチューブアンプを忠実に再現した16種類のモデルからアンプ・タイプを選びます(詳細はp.23を参照してください)。**[AMP MODEL]**セレクターを操作すると**[AMP MODEL]**セレクト・スイッチが点滅し、バリュースツマミ[1]～[6]でアンプのパラメータを調整できます。

プリアンプ、パワーアンプの動作(A、AB級)、トーン・コントロールの特性や回路上の配置は、ここで選んだアンプのタイプに従って切り替わり、それぞれのアンプ特有の動作となります。オリジナル・アンプのプリアンプ回路のゲイン/トーン特性を正確に再現しただけでなく、パワーアンプの動作(A、AB級)、負帰還回路など、重要なパワーアンプ段も入念に再現しています。

### 1.6 [CABINET MODEL](キャビネット・モデル)セレクター

アンプのキャビネットの形状、スピーカのタイプや数などを再現した11種類のキャビネット・モデルから選びます。(詳細はp.32～を参照してください)。**[CABINET MODEL]**セレクターを操作すると**[CABINET MODEL]**セレクト・スイッチが点滅します。

**NOTE** **[CABINET MODEL]**セレクト・スイッチが点滅しているときは、バリュースツマミでアンプのパラメータを調整できます。

### 1.7 [MODULATION](モジュレーション)セレクター

モジュレーション系エフェクトを11種類のモジュレーション・エフェクト・モデルから選びます。**[MODULATION]**セレクターを操作すると**[MODULATION]**セレクト・スイッチが点滅し、バリュースツマミ[1]～[6]でモジュレーション・エフェクトのパラメータが調整できます。(詳細はp.38～を参照してください。)

**NOTE** エフェクトのタイプを変えると、パラメーターが初期化されます。

### 1.8 [DELAY](ディレイ)セレクター

ディレイ系エフェクトを11種類のディレイ・エフェクト・モデルから選びます。**[DELAY]**セレクターを操作すると**[DELAY]**セレクト・スイッチが点滅し、バリュースツマミ[1]～[6]でディレイ・エフェクトのパラメータが調整できます。(詳細はp.43～を参照してください。)



**NOTE** エフェクトのタイプを変えると、パラメーターが初期化されます。

## 1.9 [REVERB](リバーブ)セレクター

リバーブ系エフェクトを11種類のリバーブ・エフェクト・モデルから選びます。[REVERB]セレクターを操作すると[REVERB]セレクト・スイッチが点滅し、バリュー・ツマミ[1]～[6]でリバーブ・エフェクトのパラメータが調整できます。(各エフェクトの説明はp.46～を参照してください。)

**NOTE** エフェクトのタイプを変えると、パラメータが初期化されます。

## 2 エディット・セクション

### 2.1 エフェクト・カテゴリーLED

エディット中のエフェクトのカテゴリーを示すLEDが点滅します。

パラメータを調整するときにはLEDの点滅しているラインのパラメータ名を参考にします。

### 2.2 バリュー・ツマミ[1]～[6]

エフェクトや、アンプモデルのパラメータを調整します。[MODEL]セレクト・スイッチで選択した(スイッチが点滅している)エフェクトが対象となり、ツマミの下のLEDが点灯して、使用可能なツマミを示します。

各ツマミに対応するパラメータの内容はp.34～を参照してください。(左からバリュー・ツマミ[1]～[6]です。)

EXPRESSIONスイッチやCONTROLスイッチが点滅しているときはそれぞれの機能を設定します。

RENAMEやGLOBALでの各設定時またはWRITE操作時、バリュー・ツマミ[6]を使って値を変えることができます。

## 3 チェイン/グローバル/リネーム/ライト/イグジット/ディスプレイ セクション

プログラム名の表示、アンプやエフェクト・セクションで音作りしているパラメータ名とその値などを表示します。RENAMEではプログラム名の変更を、WRITEではプログラムの保存を行います。また、CHAINではモジュレーション、ディレイ、リバーブの接続順序の設定を、GLOBALではMIDIや出力先の設定を行います。

### 3.1 [ ], [ ]スイッチ

パラメータの値を変更するときに使います。

### 3.2 [◀], [▶]スイッチ

エディットするパラメータの選択や、プログラム名の変更をするときに使います。

### 3.3 [CHAIN] (チェイン) スイッチ

モジュレーション、ディレイ、リバーブのエフェクト接続の順序を変更するときに使います。バリュー・ツマミ[6]や[ ], [ ]スイッチを使って値を変更します。

---

### 3.4 [GLOBAL](グローバル)スイッチ

MIDIやToneLabSEの出力の接続先に関する設定をします。

[GLOBAL]スイッチを押して、[◀], [▶]スイッチを押すと、押すたびに下記の順でメニューが切り替わります。メニュー選択後、バリュー・ツマミ[6]や[ ] [ ]スイッチを使って値を変更します。

OUT SEL : 出力先を設定(p.12)

CH HOLD : プログラム変更時に、チャンネル(A/B)の選択を保持するか、しないかを設定(p.16)

MIDI CH : MIDIチャンネルの設定(p.57)

PCHG OUT: プログラム・チェンジ・メッセージの出力設定(p.57)

CCHG I/O: コントロール・チェンジ・メッセージの入出力設定(p.57)

SYEX OUT: システム・エクスクルーシブ・メッセージの出力設定(p.58)

DUMP CUR: 現在のプログラム・データをMIDI OUT端子から出力(p.59)

DUMP ALL: 本機のすべてのデータをMIDI OUT端子から出力(p.59)

### 3.5 [RENAME](リネーム)スイッチ

プログラム名を変更するときに使用します。(p.20)

[◀], [▶] を使って表示桁を変更し、バリュー・ツマミ[6]や[ ] [ ]スイッチを使って文字を変更します。

### 3.6 [WRITE](ライト)スイッチ

音作りをした設定を保存するときに使用します。(p.21)

### 3.7 [EXIT](イグジット)スイッチ

プログラムの保存を中止したり、GLOBALの設定操作を中止するときなどに使用します。

また、長押しでスイッチ/セレクター/ツマミでの操作を無効にするキーロック機能の設定/解除を行うことができます。(p.17)

### 3.8 ネーム・ディスプレイ

プログラム名、エフェクト名、パラメータ名などを表示します。

### 3.9 バルブ・アイコン

モデルとなったオリジナルのアンプで使用されているパワー管(パワー段で使用される真空管)の数と型番を表示します。

### 3.10 バリュー・ディスプレイ

パラメータの値を表示します。

表示されているパラメータの値が変更前の値(プログラムに保存されている値)と一致しているときは、[ORIG](オリジナル・バリュー)アイコンが表示されます。

プログラムのいずれかのパラメータが変更(エディット)された状態のとき、[EDIT](エディット)アイコンが表示されます。

## 4 コントロールセットアップ セクション

### 4.1 [CONTROL] (コントロール)ペダル設定スイッチ

コントロールペダルの設定を行うときに使用します。このスイッチが点滅しているときは、バリュー・ツマミ[1]~[2]を使ってコントロールペダルの設定を変更できます。

### 4.2 [EXPRESSION] (エクスプレッション)ペダル設定スイッチ

エクスプレッション・ペダルの設定を行うときに使用します。このスイッチが点滅しているときは、バリュー・ツマミ[1]~[6]を使ってエクスプレッション・ペダルの設定を変更できます。エフェクトのエディット中に点灯している場合は、エクスプレッション・ペダルのクイックアサインができます。

**HINT** クイックアサイン: エフェクトのエディット中にエクスプレッションペダル設定スイッチが点灯している場合は、エクスプレッション・ペダル機能のクイックアサインができます。ネームディスプレイに表示されているパラメータをエクスプレッション・ペダル1にアサインしたい場合はエクスプレッション・ペダル設定スイッチを1秒間押します。エクスプレッション・ペダル2にアサインしたい場合はコントロールペダル設定スイッチを1秒間押します。アサインが完了するとネームディスプレイに[COMPLETE]と表示されます。

## 5 バンクディスプレイ、チューナーディスプレイ

### 5.1 バンクディスプレイ

バンクナンバーを表示します。チューナー起動中は音名を表示します。(p.48)

### 5.2 チューナーディスプレイ

チューナー起動中にバンクディスプレイに表示された音名からのずれを表示します。(p.48)

## 6 バンク / プログラム / チャンネル / セレクト セクション

### 6.1 BANK [UP] / [DOWN] バンクアップ / バンクダウン ペダル

プログラム選択モードではバンクアップを押すとバンクが1つ上がり、バンクダウンを押すと1つ下がります。エフェクトON/OFFモードの時は、バンクダウンペダルでINSERT(外部エフェクト)のON/OFFの切り替えができます。

### 6.2 プログラム セレクトペダル、プログラム LED

プログラムを選択します。それにあわせてペダルの左上のプログラムLEDが点灯します。エフェクトON/OFFモードのときはペダルエフェクト、モジュレーションエフェクト、ディレイエフェクト、リバースエフェクトを個別にON/OFFします。

### 6.3 [A/B ch] チャンネル切り替えペダル、チャンネルLED

現在選ばれているプログラムのチャンネルを切り替えます。それにあわせてペダルの上のチャンネルLED(チャンネルA 選択時には緑、チャンネルB選択時には赤)が点灯します。

---

## 7 [FX ON/OFF ]エフェクトオン・オフ ペダル

エフェクトON/OFFモードに変更するときこのペダルを押します。エフェクトON/OFFモードの場合は、左のLEDが点灯します。

エフェクトON/OFFモードでは、プログラムセレクトペダルを使って、ペダルエフェクト、モジュレーションエフェクト、ディレイエフェクト、リバースエフェクトを個々にON/OFF切り替えすることができます。

このペダルを0.5秒以上長押しすると、出力がバイパスされます。さらに1秒以上長押しすると出力がミュートされます。バイパス、ミュート中はチューナーが動作します。

バイパス、ミュート(チューナー)を解除するには、もう一度このペダルを押します。

## 8 エフェクトコントロール セクション

### 8.1 [CONTROL]コントロール ペダル

コントロールペダル設定で割り当てられた機能に従い、エフェクトのコントロールをします。

### 8.2 [EXP1, EXP2]エクスプレッションペダル 1、エクスプレッションペダル 2

エクスプレッションペダル設定で割り当てた機能に従いボリュームやワウ、その他エフェクトのパラメータをコントロールします。強く踏み込んでペダル下のスイッチを押すと、アサインしたエフェクトのON/OFFを切り替えることができます。(ボリュームやアンプのパラメータをアサインしているときは除きます。)

## 9 バルブ

### 9.1 バルブ・ウィンドウ

真空管12AX7(ECC83)が内蔵されています。

**NOTE** バルブ・カバーは、衝撃を与えると割れる場合があります。特に直接的な衝撃には注意してください。真空管も破損する危険性があります。また、バルブ・カバーが割れたときは、そのままにしておくと真空管の破損など故障の原因となりますので、修理をご依頼ください。

---

## リア・パネル

### 10 電源

#### 10.1 ~ AC9V

付属のAC/ACパワー・サプライを接続します。

#### 10.2 [STANDBY]スイッチ

電源を入れたり、切ったりします。

### 11 インプット

#### 11.1 INPUT 端子

ギターを接続します。

#### 11.2 INSERT 端子(SEND,RETURN)

外部エフェクターを接続します。

SENDは外部エフェクターの入力と接続します。

RETURNは外部エフェクターの出力と接続します。

#### 11.3 [LEVEL]ツマミ

OUTPUT端子、PHONE端子からの出力レベルを調整します。

#### 11.4 OUTPUT 端子(L/MONO, R)

アナログ出力端子(バランス/アンバランスTRS)です。モノラルで出力するときはL/MONOに接続します。

#### 11.5 PHONE 端子(ステレオ)

ヘッドホンを接続します。

### 12 MIDI

#### 12.1 MIDI OUT 端子

MIDIデータを送信する端子です。接続した外部MIDI機器をコントロールするときに使用します。

#### 12.2 MIDI IN 端子

MIDIデータを受信する端子です。接続した外部MIDI機器からコントロールするときに使用します。

# セットアップ

**NOTE** 各接続は必ず電源オフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、スピーカー・システム等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

## 接続先の設定

ギター・アンプに接続するかミキサー/レコーダー等に接続するかを設定します。

1. GLOBALスイッチを押し[◀], [▶]スイッチを使って“OUT SEL”を表示します。
2. バリュートツマミ[6]や[ ]、[ ]スイッチを使って値を変更します。

ギターアンプに接続するとき

ミキサー/レコーダーに接続するとき



**NOTE** 工場出荷時は“AP”に設定されています。

## 基本接続

1. ToneLabSEのOUTPUT L/MONO, R端子と、ミキサー/レコーダーやギター・アンプ等をケーブルで接続します。(p.11、12)好みに応じて外部エフェクターを接続します。SENDに外部エフェクターの入力を、RETURNに外部エフェクターの出力を接続してください。

**NOTE** モノラルで接続する場合は、OUTPUT L/MONO端子に接続してください。ToneLabSEの音質を活かすためにも、ステレオ接続をおすすめします。

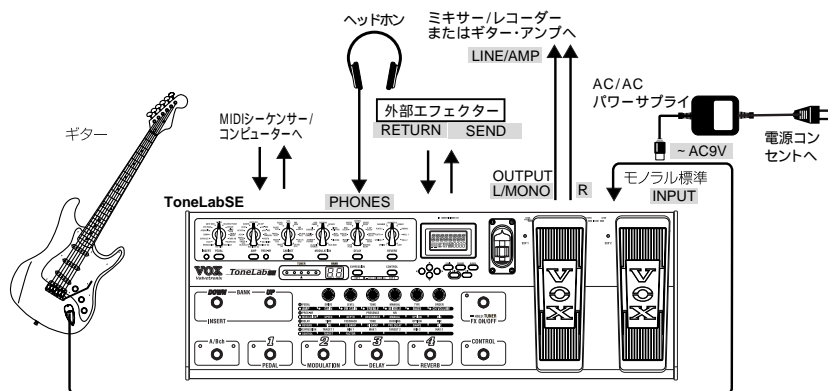
ヘッドホンを使う場合は、PHONES端子にヘッドホンのプラグをさし込んでください。

**NOTE** ヘッドホンをさしても、OUTPUT端子からの出力はカットされません。

2. 本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミをリア側から見て左に回し切り、ボリュームを0にします。
3. 付属のAC/ACパワー・サプライをリア・パネルのAC9V電源端子に接続してから、プラグをコンセントに差し込みます。
4. ギターをリア・パネルの[INPUT] (インプット) 端子に接続します。
5. [STANDBY]スイッチをオンにして電源を入れます。(電源立ち上げ時にノイズが聞こえないようにアンプやミキサーの音量は十分に下げてください。)
6. ミキサー/レコーダーなどに接続する場合はGLOBALスイッチを押し[OUT SEL]メニューを選び、バリュー・ツマミ[6]や[ ]、[ ]スイッチで“Ln”(LINE)を選択してください。ギター・アンプに接続する場合は“AP”(AMP)に設定します。

7. アンプやミキサー、本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミを適宜上げて、音量を調整します。

**NOTE** 本機は真空管を使用しているため、真空管が温まるまでの数秒間、音が出ないことがあります。これは故障ではありません。



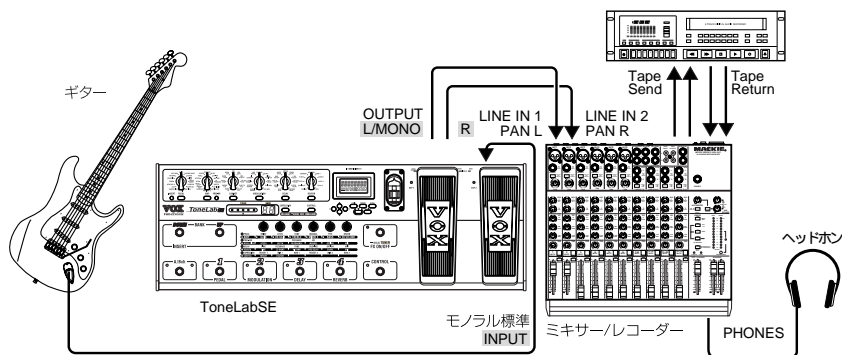
## ライン録音で使用する場合

### ミキサー、レコーダー接続例

- ToneLabSEを使ってライン録音でレコーディングをするときは、OUTPUT L/MONO、R端子を、ミキサー、レコーダーの入力端子に接続します。GLOBALスイッチを押して[OUT SEL]メニューを選び、パリュュー・ツマミ[6]や[ ]スイッチで Ln (LINE)を選択してください。

**HINT** モノラル接続する場合は、OUTPUT L/MONO端子に接続してください。

**HINT** ステレオ接続する場合は、ミキサー/レコーダーの入力チャンネルのパンをそれぞれL、Rに設定します。



## ライブで使用する場合

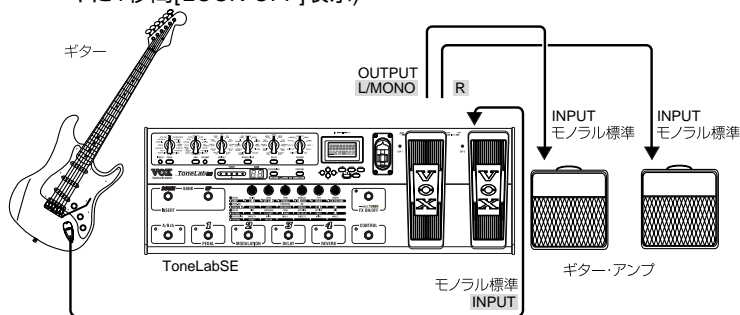
### ギター・アンプ接続例

- ToneLabSEをライブなどで使用するためにギター・アンプと接続するときは、OUTPUT L/MONO、R端子を、アンプの入力端子に接続します。好みに応じて外部エフェクターを接続します。SENDに外部エフェクターの入力を、RETURNに外部エフェクターの出力を接続してください。GLOBALスイッチを押して[OUT SEL]メニューを選び、バリュー・ツマミ[6]や[ ]スイッチで“AP”(AMP)を選択してください。

**HINT** コンポアンプやヘッドの直前に本機を接続する場合は、ギター・アンプ側のトーンをセンターに、そしてサウンドが歪まないように、[FX ON/OFF](エフェクトオン/オフ)ペダルを0.5秒長押ししてToneLabSEをバイパスにし、ギターをダイレクトにアンプに接続した場合の音量と合うように、リア・パネルの[LEVEL]ツマミを調整してください。

**HINT** パワーアンプへ直接接続できる端子(ReturnやMain Inなど)を持つギター・アンプと接続する場合は、[OUT SEL]メニューを“Ln”(LINE)に設定し、それらの端子に接続してください。また、これらのアンプ(+キャビネット)の特性を生かしたいときはCABINETを“OFF”に設定してもよいでしょう。

**HINT** プログラム名が表示されている場合に[EXIT](イグジット)スイッチを1秒間長押しすると、スイッチ/セレクター/ツマミの操作を無効にするキーロック機能を設定することができます。(ネームディスプレイに1秒間[KEY LOCK]表示、バリューツマミLED消灯)  
解除する場合は、[EXIT](イグジット)スイッチを1秒間長押ししてください。(ネームディスプレイに1秒間[LOCK OFF]表示)



## MIDI機器/コンピュータを使用する場合

MIDIを使うことによって、シーケンサーなどから本機をコントロールしたり、本機から外部MIDI機器をコントロールすることができます。また、MIDIエクスクルーシブ・データが送受信できるシーケンサーやMIDIデータ・ファイラにプログラムを保存し、本機にロードすることができます。

**HINT** MIDIに関する接続方法はp.56を参照してください。



---

# 演奏する

---

## プログラム・セレクト・モード

96のプログラム(24バンク×4プログラム)があり、これらのプログラムはすべて書き替えが可能です。工場出荷時は1～8バンクの各プログラムにプリセット・プログラム(合計32)が入っています。(バンク9～16,17～24にはバンク1～8と同じプリセット・プログラムが入っています。)

プログラムはプログラム・セレクト・モードのときに選ぶことができます。

### プログラムを選ぶ

例としてプログラム2-3(バンク2のプログラム3)を呼び出しましょう。

1. プログラム・セレクト・モードであることを確認します。  
エフェクトON/OFFペダルのLEDが点灯しているときは、エフェクトON/OFFモードが選ばれています。FX ON/OFFペダルを押して、プログラム・セレクト・モードにしてください。
2. BANK [UP]、[DOWN]ペダルを押してバンク2を選びます。  
バンク・ディスプレイのバンク・ナンバーが点滅します。
3. プログラム・セレクト [3]ペダルを押します。  
プログラム2-3がすぐに呼び出されます。このときプログラム・セレクト [3]ペダルのLEDが点灯し、バンク・ナンバーも点灯に変わります。

**HINT** バンクを選択しただけでプログラムを選択していない状態では、バンクを選ぶ前に選択していたプログラムがまだ有効になっています。このため、ライブなどでプログラムを切り替えるときは、バンクを早めに選択しておいてからタイミングよくプログラムを選ぶと、スムーズなプログラムの切り替えができます。

## エフェクトON/OFFモード

プログラム・セレクトペダル1～4を使って、現在演奏しているプログラムのペダルエフェクト、モジュレーションエフェクト、ディレイエフェクト、リバーブエフェクトを個別にON/OFFすることができます。また、バンクダウンペダルを使って、INSERT端子に接続した外部エフェクトへの信号の入出力を個別にON/OFFすることができます。

プログラムを変更する場合は、エフェクトON/OFFペダルを再度押してプログラムセレクトモードに入ります。

**NOTE** エフェクトON/OFFモードではバンクアップペダルによる操作は無効になります。

---

## エフェクトのON/OFFを切り替える

例として演奏中のプログラムのエフェクトのペダルエフェクトとINSERTのON/OFFを切り替えます。

1. エフェクトON/OFFペダルのLEDが消灯しているときは、プログラムセレクトモードが選ばれています。エフェクトON/OFFペダルを押して、エフェクトON/OFFモードにします。  
プログラムLED1～4はそれぞれペダルエフェクト、モジュレーションエフェクト、ディレイエフェクト、リバーブエフェクトのON/OFFを表示します。
2. プログラムLED1が点灯しているときは、ペダルエフェクトがONになっています。プログラムセレクトペダル1を押すと、ペダルエフェクトがOFFになりプログラムLED1が消灯します。
3. INSERTスイッチのLEDが消灯している場合は、外部エフェクトへの信号の入出力がOFFになっています。バンクダウンペダルを押すと、INSERT端子に接続した外部エフェクトへの入出力がONになり、INSERTスイッチのLEDが点灯します。

**NOTE** INSERT SEND/RETURN端子に外部エフェクトが接続されていない場合には、INSERTスイッチのLEDの点灯/消灯に関わらず、常にINPUTの入力が有効になります。

## A/Bチャンネルのホールド

プログラムを切り替えたときに、プログラムにメモリーされているチャンネルに切り替える(OFF)か、チャンネルを保持する(ON)かを設定します。

1. GLOBALスイッチを押し[◀]、[▶]スイッチを使って“CH HOLD”を表示します。
2. バリューツマミ[6]や[ ]、[ ]スイッチを使って値を変更します。

**NOTE** 工場出荷時は“OFF”に設定されています。

---

## キーロック機能の設定/解除

ライブでの使用の場合などに、スイッチ/セクター/ツマミなどを誤って動かしてしまわないように、以下の手順でキーロックモードを設定することができます。

**NOTE** キーロック機能が設定されている場合は、ペダル、[EXIT]スイッチ以外の操作はできません。

**NOTE** キーロック機能の設定は、電源をオフにすると無効となり、再び電源をオンにすると自動的に解除されます。

### キーロック機能の設定

1. ネームディスプレイにプログラム名以外の表示がされている場合や、プログラム名の文字が点滅している場合は[EXIT]スイッチを押してください。
2. ネームディスプレイにプログラム名が表示されている状態で[EXIT]スイッチを1秒間押してください。  
ネームディスプレイに1秒間[KEY LOCK]と表示され、バリューツマミのLEDが消灯します。

### キーロック機能の解除

1. ネームディスプレイにプログラム名以外の表示がされている場合は[EXIT]スイッチを押してください。
2. [EXIT]スイッチを1秒間押してください。  
ネームディスプレイに1秒間[LOCK OFF]と表示され、バリューツマミのLEDが点灯します。

---

# 音作りと保存

---

音作りの方法には、作りたい音に近いプリセット・プログラムなど既存のプログラムを元にして、必要な部分を変更して目的の音を作り上げていく方法と、白紙の状態(ゼロ)から作り上げていく方法があります。

## 音作りをする

既存のプログラムを元にして音作りをしていく場合は、作りたい音に近いプログラムを選び、[MODEL]セレクト・スイッチで調整したいエフェクトを選んで、バリュースツマミ[1]～[6]でエフェクトを調整していきます。

例えば、モダンなクランチ・リズム・サウンドを元に、ゲインをアップさせ、もっとラウドな中域を強調したコンテンポラリーなリード・サウンドを作るといった具合です。

ここでは白紙の状態(ゼロ)から作る方法を説明します。

**NOTE** 必ずp.12のセットアップに従って、GLOBALメニューのOUT SELを正しく設定した上で、操作を行ってください。

1. 任意のプログラムを選びます。( p.15 )

**HINT** ゼロから音作りをしますので、どのプログラムでもかまいません。

2. PEDAL,MODULATION,DELAY,REVERB セクションの、点灯しているモデル・セレクトスイッチを2度押して、アンプ・モデル、キャビネット以外のエフェクトをOFF(バイパス)にします。

3. チャンネル・セレクト・ペダルを押して、音作りをするチャンネル(A,B)を選びます。チャンネル A 選択時には緑、チャンネル B 選択時には赤が点灯します。ここではまず緑を点灯させ、チャンネル A を選択します。

4. [AMP MODEL]セレクターで、使用したいアンプを選びます。

**HINT** アンプ・タイプ、キャビネット・タイプやエフェクト・タイプの詳細については「アンプ、エフェクト・タイプの説明」(p.23)を参照してください。

5. バリュースツマミ[1]～[6]で、[GAIN]、[VR GAIN] [TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[CH VOLUME]を適宜調整します。[CH VOLUME]はパワー段の歪みなどトータルなサウンドを維持したまま音量を変化させます。[PRESENCE]を調整するときは[PRES-NR]スイッチを押してバリュースツマミ[3]を設定します。[GAIN]などの調整に戻るには、[AMP]モデル・セレクトスイッチを押します。

**HINT** ベストな歪みを得るには、できるだけ[VR GAIN]を上げてください。

**NOTE** エフェクトの設定によっては出力音に歪みが生じる場合があります。この場合、CH VOLUMEを下げ調整してください。

6. [CABINET]モデルセクターで、使用したいキャビネットを選びます。

**HINT** アンプ・タイプとキャビネットタイプの推奨する組み合わせについては、p.34を参照してください。

7. [PRES-NR]スイッチを押して、[NR SENS](バリュー・ツマミ[4])を適宜調整します。ノイズ・リダクションは値(0.2, 0.4, ..., 10.0)が大きいほど効果が強くなります。“OFF”にすると効果が無くなります。

**NOTE** アンプ・タイプに“RECTO”や“US HIGAIN”などのハイ・ゲイン設定を使用する場合はノイズ・リダクションをおすすめします。ハイ・ゲインはノイズにつながるからです。使用するギターによっては、ノイズ・リダクションの値を上げすぎると、音が途切れることがあります。

**HINT** ノイズ・リダクションは、チャンネル A/B ごとに設定します。

**HINT** チャンネル B にも別のサウンドのアンプ、キャビネットの設定をすることができます。その場合は、チャンネル・セレクト・ペダルを押して赤のLEDを点灯させ、4～7 の操作をします。

8. 各セクションから追加するエフェクトを1つ選択し調整します。例えばスプリング・リバーブを加える場合、[REVERB]セクターで、SPRING1(または SPRING2 )を選択します。

**HINT** このときリバーブ・モデルが自動的に ON になり、エディットセクションの REVERB パラメータライン LED が点滅し、REVERB パラメータに対応するバリュー・つまみ下の LED が点灯します。例えば SPRING1 のパラメータは バリューツマミ[1]から[4] が、TIME,LO DAMP, HI DAMP, PRE DELAY, バリューツマミ[6]がMIX になります。

9. リバーブのミックス量を調整するには、MIX パラメータに対応するバリューツマミ[6] を適宜調整します。

PEDAL, MODULATION, DELAY の各エフェクトも同様に、セクターでエフェクトを選びバリューツマミでパラメータを調整します。

**HINT** PEDAL エフェクトは、モジュレーション、ディレイ、リバーブの入っていないサウンドの方が調整しやすい場合があります。PEDAL エフェクトを使う場合はアンプやキャビネットを設定した後、他のエフェクトに先がけて調整すると良いでしょう。

**NOTE** パラメータの名称がエディット・セクションのパラメータラインに書かれているものと異なるモデルがあります。バリューツマミを操作したときにディスプレイに表示されるのが実際の名称となります。パラメータの詳細はp.35～をご覧ください。

10. 再調整する場合は、調整したいモデルのセレクト・スイッチを押した後、バリューツマミを調整します。

バリューツマミを操作したときに、EXPRESSION スイッチが点灯した場合、そのパラメータをエクスペッション・ペダルに割り当てることができます。このとき、EXPRESSION スイッチをホールド(一秒以上長押し)すると、エクスペッション・ペダル1(EXP1)にパラメータが割り当てられ(エクスペッション・ペダルのクイック・アサイン機能)演奏中にペダルでパラメータをコントロールすることが可能です。(CONTROL スイッチをホールドすると、エクスペッション・ペダル2(EXP2)にパラメータが割り当てられます。)例えばPEDALモデル・セクターで U-VIBE を選択し、バリュー・ツマミ1で SPEED パラメータを操作すると、EXPRESSION スイッ

---

チが点灯しますが、上記の操作で、エクスプレッション・ペダルにSPEEDパラメータを割り当てる  
ことができます。詳細はp.50をご覧ください。

**HINT** PEDAL モデル・セクターでVOX WAH を選択した場合は、自動的に MANUAL パラメータ  
がエクスプレッション・ペダル1(EXP1)に割り当てられ、ワウ・ワウ・ペダルとして使用すること  
ができます。

## **エフェクトの接続順序を変更する(CHAIN)**

モジュレーションエフェクト、ディレイエフェクト、リバーブエフェクトの接続の順序を自由に変更  
することができます。

エフェクトの接続順序の設定は、プログラムごとに保存されます。

1. CHAINスイッチを押すと、現在の接続順序が表示されます。
2. バリュースツマミ[6]または[ ] [ ]スイッチを使って値を変更します。

表示	接続順
MD>DL>RV	モジュレーション ディレイ リバーブ
MD>RV>DL	モジュレーション リバーブ ディレイ
DL>MD>RV	ディレイ モジュレーション リバーブ
DL>RV>MD	ディレイ リバーブ モジュレーション
RV>MD>DL	リバーブ モジュレーション ディレイ
RV>DL>MD	リバーブ ディレイ モジュレーション

## **プログラムに名前を付ける (RENAME "Program name")**

プログラムに名前を付けます。

**NOTE** プログラム名は、プログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムに切り替えたり、  
電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [RENAME]スイッチを押します。
2. [◀] [▶]スイッチを押して変更したい文字にカーソルを移動し(選んでいる文字が点滅します)、  
バリュースツマミ[6]または[ ] [ ]スイッチで文字を変更します。

使用できる文字は下図の通りです。

# % & ' ( ) \* + , - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 - / \ = > ?  
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z \ ^ \_

3. 手順2の操作を繰り返して名前を付けます。
4. プログラム名を入力したら[EXIT]スイッチを押して元のモードに戻ります。

## プログラムを保存する

気に入ったサウンドに仕上がったら保存(ライト)します。

1. [WRITE]スイッチを押します。  
ネーム・ディスプレイに“\*WRITE\*”と表示され、バンク・ディスプレイとプログラム LED[1]~[4]が点滅します。
2. バリュースツマミ[6]または[ ] [ ]スイッチで保存先のバンクを選び、[◀]、[▶]スイッチで、保存先のプログラム[1]~[4]を選びます。

例えば9-1(バンク9、プログラム1)に保存する場合は、バリュースツマミ[6]または[ ] [ ]スイッチを操作してバンク・ディスプレイに“9”を表示し、[◀]、[▶]スイッチを押して、プログラム[1]ペダルのLEDを点滅させます。

**HINT** 保存先となるプログラムの選択には、BANK [UP][DOWN]スイッチや、プログラム[1]~[4]セレクトスイッチを使うこともできます。

3. [WRITE]スイッチをもう1度押します。  
ネームディスプレイに“COMPLETE”と表示され、これでプログラムが保存され、プログラム・セレクト・モードに戻ります。

**NOTE** プログラムは上書き保存されます。手順2で選んだナンバーの元のプログラムは消去されます。

**NOTE** 新しいプログラムを保存しない場合は、[EXIT]スイッチを押して、操作をキャンセルしてください。

**NOTE** 保存しないで他のプログラムに切り替えたり電源を切ると、音作りをしていた内容は消えてしまいます。

## プログラムに保存した値を確認する(オリジナル・バリュー)

プログラムに保存されているパラメータの値は、バリュースツマミのオリジナル・バリュー・アイコンで確認できます。

ツマミやスイッチでパラメータの値を変更しているとき、その値がプログラムに保存されている値(オリジナル・バリュー)と一致すると、[ORIG](オリジナル・バリュー)アイコンが表示されます。

**HINT** 気に入ったプログラムを見つけ、それがどんな設定になっているか知りたい場合は、このバリュースツマミを活用するとよいでしょう。

# アンプ/エフェクト・タイプの説明

ここではToneLabSEの16種類のアンプ・モデルとペダル・エフェクト、11種類のキャビネット・モデル、モジュレーション、ディレイ、リバーブ・エフェクトについて説明します。

## A. AMP(アンプ)モデル

最初に、素晴らしいサウンドを誇る数々のアンプの中からToneLabSEのために特別に選んだ16種類のアンプ・モデルについて説明します。モデルとなるアンプを選択するには、かなりの時間を費やし、スタッフ同士の意見交換、プロ・ミュージシャンやギター専門家のアドバイス、数限りない試聴、試奏を繰り返しました。こうして選んだアンプは皆によく知られた最良なサウンドを生み出すだけではなく、素直なクリーン・サウンドから、とてつもなく歪んだサウンドまで、幅広く網羅します。

### コントロール類について

本機のアンプ・モデルには、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE]、[GAIN]、[VR GAIN]、[CH VOLUME]の各コントロールがありますが、モデルとなったアンプには必ずしもこれらのコントロール類がすべて搭載されているわけではありません。そこで、元のアンプにないツマミをそのまま遊ばせておくのももったいないので、アンプ・モデルの再現性を損なわずことなく、この6つのコントロールに機能を割り当てました。つまり、オリジナルのアンプの音色を正確に再現するだけでなく、更に自在なコントロールができるわけです。

例えば、オリジナルのアンプに3バンドEQの全部がそろっていない場合は、実際のアンプにないコントロールを12時の方向にしたときに「ニュートラル」、つまりオリジナルのサウンドに相当させることができます。それ以外に変えることによって自在な音色調整が可能になります。以下はトレブル、ミドル、ベース・コントロールのいずれか(または全部)がそろっていないアンプです。

アンプ	オリジナルのトーン・コントロール
AC15	トップ・カット & ベース・カット・スイッチ
AC15TB	トレブル & ベース
AC30	トップ・カット・コントロールのみ
AC30TB	トレブル、ベース、カット・コントロール
TWEED 1x12	トーン・コントロールのみ

プレゼンス・コントロールについても同様です。元のアンプにプレゼンス・コントロールがない場合は、ToneLabSEの[PRESENCE]コントロールを左いっぱいに戻すと「ニュートラル」の位置になります。オリジナルのアンプ・サウンドが再現できる位置です。該当するアンプ・モデルには、BLACK 2x12、TWEED 1x12があります。AC15、AC15TB、AC30、AC30TBではトップ・カット・コントロールとして動作します。

### ゲインとボリュームについて

ToneLabSEのアンプ・モデルには3つのプログラマブルな音量(ゲイン)をコントロールするツマミ[GAIN]、[VR GAIN]、[CH VOLUME]があり、それぞれが固有な働きをします。どのアンプ・モデルも、これらの設定次第でサウンドが驚くほど変化します。



たいていのビンテージ・アンプにはボリューム・コントロールが1つしかありません。最近のアンプには、たいていゲインとマスター・ボリュームの2種類のレベル・コントロールがあります。ゲイン(あるいはプリアンプ・ボリューム)はプリアンプ部の入力レベルを調整し、マスター・ボリュームはプリアンプ部からパワーアンプ部へ送る信号レベルを調整します。上記のようなビンテージ・アンプにはマスター・ボリュームは無く、プリアンプの出力が直接パワーアンプに送られます。

各コントロールは、以下の働きをします。

[GAIN] コントロール: マスター・ボリュームの無いIAC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK 68P、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10のようなビンテージ・タイプのモデルでは、オリジナル・アンプのVOLUMEとして働きます。その他のマスター・ボリューム付きのモダン・アンプでは、GAINまたはPREAMP VOLUMEと同じ働きをします。

[VR GAIN] コントロール: マスター・ボリュームとして、プリアンプ部からパワーアンプ(Valve Reactor)部へ送る信号レベルをコントロールします。

[CH VOLUME] コントロール: アンプ出力とスピーカー・キャビネット入力間のアッテネ - タ(減衰)として機能します。このコントロールで最終的なミックス・レベルと、各プログラム間のレベル・バランスを調整します。

ToneLabSEのプリアンプ部とパワーアンプ部の関係は、オリジナル・アンプの動作と同じように設計しています。ToneLabSEオリジナル・アンプのサウンドを再現するには、[VR GAIN] コントロールを次のように設定してください。

マスター・ボリューム・コントロールがないビンテージ・タイプのモデルで使用するときは、[VR GAIN]コントロールを最大に上げます。

マスター・ボリューム・コントロール付きのモダン・タイプのモデルで使用するときは、マスター・ボリューム・コントロールを調整するのと同じように[VR GAIN]を調整してください。[VR GAIN]の設定が低いときは、どちらかというプリアンプ・タイプのディストーションとなり、高い設定にすると、Valve Reactorの歪みと暖かみが加わります。

## 真空管の話

真空管のことをイギリスでは「バルブ」、アメリカでは「チューブ」と呼びます。このように国によって名称は違いますが、ToneLabSEの16個のアンプ・モデルの心臓にはいずれも、あの真空のガラス管が息づいています。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプは「チューブ」と呼んでいます。

### Q&A

ECC83 プリアンプ・バルブと12AX7 プリアンプ・チューブの違いは?

まったく同じです。ECC83はイギリス名、12AX7(別名7025)はアメリカ名です。

## パワーアンプの精度

すでに述べたように、優れたチューブアンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に大きな影響を与えています。パワーアンプの動作(A、AB級) 真空管の種類(EL84、EL34、6L6、6V6) 負帰還回路特性、パワー段のスピーカーとの応答性、ダンピング特

---

性)これらの要素が音色に重要な役割を果たしています。ToneLabSEは米国特許取得済みの Valve Reactor技術を採用することによって、このような要素が忠実に再現できるのです。このフル・チューブアンプと同じ回路構成を持つValve Reactor技術によって、モデルとなったアンプのフル・チューブ・パワー段の独特の様々な回路特性をシミュレートして、チューブアンプに固有の重要な特性を忠実に、そして正確に再現します。たとえばアンプ・モデルのAC30TBを選択すると、ToneLabSEのValve Reactorパワー段はA級、無帰還という設定に切り替わりま

す。

次に各アンプ・モデルについて説明しましょう。

## 1. AC15

素晴らしいサウンドの1962年製VOX AC15のチャンネル2をモデリングしました。VOX AC15は1x12<sup>1</sup>、15W、デュアル・チャンネルのチューブ・コンボで1958年に発売されました。VOXアンプの初デビューでした。その名前の由来は単純です。ACとはAmplifier Combination(アンプ・コンビネーション)15はもちろん15W。コンパクトなキャビネット、パワー、内蔵トレモロ/ビブラート(チャンネル1のみ)そして素晴らしい音色で、当時人気のあったプリティッシュ・バンドと共に大ヒットになり、チャートのトップを賑わすバンドもVOXアンプを喜んで推奨したものです。

このアンプのユニークな音色は、主に無帰還A級動作のEL84出力バルブ(チューブ)を使用したことによります。モデリング対象となったその他のVOX社の3機種(AC15TB、AC30、AC30TB)についても同様です。このデザインのため、パワーとディストーションが増し、アンプのボリュームを上げるほど益々顕著になる第二、第三倍音で更に厚みがかかりました。本機のパワー段では、AC15だけでなくその他のVOXモデルを選ぶと、Valve Reactor技術によって自動的に無帰還A級動作に設定されます。

この時代のほとんどのアンプと同様、AC15も「シンプル」の極みで、モデリング対象となったチャンネル2にはボリューム、プリリンス(実際はベース・カット)とトップ・カットの3つのコントロールしかありません。本機でAC15を選択すると、[GAIN]コントロールがオリジナルのボリューム・コントロールの役目を果たします。また本機[PRESENCE]コントロールはオリジナルのトップ・カット・ツマミに相当します。AC15のトップ・カット・ツマミ(\*1)が高域成分を調整する動作は「普通」のトレブル・コントロールとはかなり異なります。これをうまく使いこなせば、かの有名なVOXアンプの「きらびやか」なサウンドを忠実に再現できます。[BASS]コントロールは、オリジナル・モデルにある切り替えスイッチに代えて、可変のベース・カット(オリジナルの表記はBrilliance)になっています。

[TREBLE]、[MIDDLE]コントロールはそれぞれ12時の方向に設定すると「ニュートラル」、つまりオリジナルそのままの音色が得られます。

- \*1: オリジナルのAC15搭載のトップ・カット・ツマミは、一般的な動作と逆の動きをするので注意してください。オリジナルのモデルでは右に回すほど「カット」されますが、本機では、[PRESENCE]コントロールを右に回すほど「きらびやか」になり、ゼロに近くなるほど「カット」量が大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: EF86 x 1、ECC83 x 3、ECC82 x 1(プリアンプ内)、EZ81 x 1(整流器)、EL84 x 2(パワーアンプ内)

## 2. AC15TB

1950年代後半に登場したAC15に対し、AC15TBはAC15の低出力パワー・アンプの甘美で理想的な音色特性と、AC30のトップ・ブースト・チャンネルの自由度の高い音色を組み合わせ、モダンなアンプです。これに更に甘さを加えるため、セレクション製12インチ“BLUE”スピーカー、リバーブ・コントロール、マスター・ボリュームも導入しました。その結果できたのが、ヴィンテージVOXアンプのトーンとモダンな特徴をうまく融合した、自由度の一層高い15Wのチューブ1x12コンボです。

オリジナル・モデルのトーン・コントロールはトレブルとベースだけなので、本機の[TREBLE]と[BASS]コントロールでトーンを調整し、[MIDDLE] (12時の方向でオリジナルの値)と[PRESENCE] (最大でオリジナルの値)を使って、更に自在な音色の調整ができます。「VOXらしさ」を最大限に出すために、[PRESENCE]コントロールがオリジナルのAC15のトップ・カット・ツマミと同じ機能を持つように設計しました。ただし、AC15のアンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

VOXアンプのトレードマークのサウンド通り、このモデルは響きのいいクリーン・トーンと、スムーズながらも理想的な倍音の波打つオーバードライブ・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5 (プリアンプ内) 5Y3GT x 1 (整流器) EL84 x 2 (パワーアンプ内)

## 3. AC30

前述したようにVOX AC15は50年代後半にブリティッシュ・バンドの間で大ヒットになりました。ところが、AC15を愛用するバンドの人気が高まるにつれて、もっとパワフルなアンプへの要求も高まりました。AC15は15Wにしてはかなり大音量でしたが、1000人以上の観客が叫ぶ中では蚊の鳴き声です。50年代後半から60年代前半は、ギター・アンプの音をPAに送らずPAはもっぱらボーカル用に使われました。バンドの背後に立ち並ぶアンプが音を出す役目を背負いました。このためVOX社は大音量のアンプの必要性に答えるために喜んで開発に取りかかりました。

その成果が発表されたのが1959年。30W、2x12のAC30です。トップのブリティッシュ・バンドが早速AC30にグレードアップし、何カ月かして、そのバンドの1組が華やかなギター・インストルメンタルのシングルでチャートのトップに踊り出しました。そこで他のブリティッシュ・バンドのほとんどが、追い付け、追い越せとばかりにAC30を採用し、AC30は当時の「ビート・ブーム」の火付け役になりました。さらに、60年代にはイギリスのバンドがアメリカに波のように押し寄せ成功を収めた、かの有名な現象「ブリティッシュ・ロックのアメリカ上陸」の原動力ともなりました。この先頭に立ったのはリバプール出身の4人組で、VOXアンプにとって最も有名な大使となったのです。

モデリングの対象となったのは、ブリティッシュ・ロックのアメリカ上陸を定義づけた、あのクラシックな音色を包括した、AC30のノーマル・チャンネルのサウンドです。AC15と同様、AC30のノーマル・チャンネルもツマミがボリュームとトップ・カット(本機では[GAIN]と[PRESENCE](\*2)で代用)しかありません。

\*2: [PRESENCE]コントロールはオリジナルのAC30のトップ・カット・ツマミと同じ機能を果たしますが、AC15アンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

---

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4, ECC82 x 1( プリアンプ内 ) GZ34 x 1( 整流器 )  
EL84 x 4( パワーアンプ内 )

#### 4. AC30TB

AC30は絶大なる成功を収めました、更なる音色的自由度とゲインを望むアーティストも多く、VOX社はこれに応えて、ECC83バルブ( チューブ )を追加した音色回路を持つアンプを開発しました。この回路が「トップ・ブースト」です(\*3)、トップ・ブーストをAC30に追加した際に、プリリアント・チャンネルのゲインを上げ、EQコントロールも2つ追加してトレブル、ベース、カットの3つのトーン・コントロールを搭載しました。これがギター・プレーヤーたちに瞬く間にヒットとなった、と言ってもまだ過小評価です。このググッと迫る力強いサウンドは60年代中盤の多くの有名バンドのトレードマークのサウンドになりました。

\*3: VOXは当初、この回路を「プリリアンス・ユニット」と呼びましたが、後に「トップ・ブースト」と呼ばれて有名になりました。トップ・ブーストは最初、改造モデルにのみ導入されましたが、それほど難しい改造とはいえ、ほとんどの人はあまり手を付けられませんでした。(電気回路が得意な人もいるかもしれませんが、著者にとって電気回路をいじるのはあんまり楽しいこととは言えません。)やがて1964年、トップ・ブーストはAC30の標準仕様として搭載されるようになったのです。

[PRESENCE]コントロールはオリジナルのカット・ツマミの機能を果たし(ただし、ゼロに近くなるほどカット量が大きくなります)、[GAIN]、[TREBLE]、[BASS]コントロールは、オリジナルのボリューム、トレブル、ベース・コントロールを再現します。[MIDDLE]コントロールは12時の方向でオリジナル・サウンドとなります。

このアンプ・モデルは、スムーズかつ繊細なトップ・エンド、威厳のある野太いオーバードライブ、オリジナル・アンプをギター・プレーヤーの必須アイテムにしたA級音色を併せ持つ、豊かで華やかなクリーン・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5, ECC82 x 1( プリアンプ内 ) GZ34 x 1( 整流器 )  
EL84 x 4( パワーアンプ内 )

#### 5. UK BLUES

非常に珍しいハンド・ワイヤリングによって、60年代初期、古き良きイングランドで作られたヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。このアンプはTWEED 4x10の回路を元に設計されましたが、別のタイプの真空管、トランスフォーマーを使用し、クローズ型キャビネットに出力インピーダンスの高い全く別タイプのスピーカーを採用するなど、基本要素でいくつかの変更を加えたため、ユニークな音色になっています。この30ワット出力のアンプの音量を一杯に上げると、ロックン・ロール・サウンドとして永遠に変わらないクランチを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3( プリアンプ内 ) GZ34 x 1( 整流器 ) KT66 x 2  
( パワーアンプ内 )

## 6. UK 68P

1968年、UK製50W、プレキシガラスのフロント、4つのインプットを持つヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。オリジナル・モデルにはマスター・ボリュームはなく、最善の、あるいは唯一のセットアップ方法はボリュームを目いっぱい上げて音をブリつかせることでした。

このアンプは極めて豊かで暖かみのあるトーンを生み出します。クラシック・ロックのサウンドが即座に味わえます。このアンプでフルポテンシャルまで鳴らし切る唯一の方法は、先程も言いましたが、耐えられないほどの大音響までボリュームを上げることです。幸いToneLabSEは音量コントロールが可能です。オリジナル・モデルと同じレスポンスを得るには[VR GAIN]コントロールを最大に上げてください。そうすればToneLabSEはオリジナル・アンプと同じように働きます。これはすべてのマスター・ボリュームがないタイプのアンプ・モデルについても言えることです。

[GAIN]コントロールを目いっぱい上げると、演奏のダイナミクスのわずかな変化にも優美に応答し、クラシック・ロックのあの最高のオーバードライブが即座に体験できます。また、ギター側のボリュームを下げるとユニークできわめて使いやすいクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3(プリアンプ内) EL34 x 2(パワーアンプ内)

## 7. UK '80S

1983年、UK製100Wマスター・ボリューム付きシングル・チャンネルのヘッドをモデリングしました。アンプの音量をいっばいに上げなくてもクランチ・トーンが生み出せるモデルです。ゲイン・コントロールをフルアップすると、80年代を制覇した、うなるような太いハード・ロック・サウンドが得られました。身体にピッチリはりついたタイトのようなズボンでハリケーンのようにロックしたヨーロッパのバンドや稲妻に乗ったスピード狂のアメリカのバンドにとって、このモデルは唯一の選択肢です。

オリジナルのアンプは独特のハードなクランチ・サウンドで有名になりましたが、そのサウンド一辺倒ではなく、本機のモデルもギターのリックを絞ると、ロックのコード・ワークに最適な、どんなミックスでも音のよく通るブライトでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3(プリアンプ内) EL34 x 4(パワーアンプ内)

## 8. UK '90S

100Wデュアル・チャンネル・ヘッドのリード・チャンネルをモデリングしました。プリアンプでディストーションをかなりかけられます。このアンプはUK '80Sに代わるもので、ゲイン、機能、自由度を要求するロック・ギタリストに於いて開発され、すぐに「業界の標準」になりました。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4(プリアンプ内) EL34 x 4(パワーアンプ内)

## 9. UK MODERN (UK MODRN)

UK '80SとUK '90Sを融合させた100Wのモダン・アンプのハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。UK '90Sの心地よいトーンのハイ・ゲイン・プリアンプ段、モダンなサウンドと、UK '80Sのパワー段が持つ、うなるようなパンチの効いたファットでヘヴィーなサウンドを組み合わせています。その結果、個々の音に粹組みを持ちながらも、かなり攻撃的で鼻息の荒いモンスター・サウンドに仕上がっています。本機の[GAIN]コントロールをフルアップにすると、ローエンドはぐっと締まっ

---

てパンチ力を維持しながら、ソウルフルなフィードバックにむせぶギターソロが弾けます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4( プリアンプ内 ) EL34 x 4( パワーアンプ内 )

## 10.RECTO

カリフォルニア産、100W、メタル・プレートに身を包んだ猛獣のごときハイ・ゲイン・アンプのモダン・ハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。暗くて奥底の知れないローエンド、きらめく高域、怪獣のようなゲインは、できるだけ低くチューニングしたギターや7弦ギターを振ったメタル・アクトに最適です。

[GAIN]コントロールを低く設定すると、空間を広げる豊かな高域倍音によって強調された特有の明るくクリーンなサウンドを生みます。このためRECTOはカントリー&ウエスタンのピッキングにはお奨めできませんが、海底よりもっと低いチューニングでニューメタルを弾くような場合はRECTOがピッタリです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 5( プリアンプ内 ) 5U4G x 2( 整流器 ) 6L6 x 4( パワーアンプ内 )

## 11.US HIGAIN (US HI-G)

蛇皮でカバーされた1991年製100Wアンプ・ヘッドのオーバー・ドライブ・チャンネルをモデリングしました。このハイ・ゲイン・アンプはHot Rod( ホット・ロッド )というレースカーを作った人がデザインしたもので、ボリュームのパワーは凄いの一言です。

オープンなローエンドと圧縮した中/高域を組み合わせた、パワフルでヘヴィーなサウンドで、どんな極端なゲイン設定でも芯の通った迫力のあるトーンになります。この特性は世界の有名なプレイヤーの間で好まれ、多目的な使用が可能となっています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4( プリアンプ内 ) 6L6 x 4( パワーアンプ内 )

## 12.BOUTIQUE OD (BTQ OD)

非常に珍しく非常に高価で評判の高い100Wヘッド、オーバードライブ・スペシャルのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。完全受注生産でハンド・メイドされるこのアンプは、サクスのようなレガート・ソロに最適です。本機の[GAIN]コントロールを上げたときの素晴らしいサスティーンはスムーズでソウルフルです。女性の柔らかな丸みのある声に似ています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3( プリアンプ内 ) EL34 x 4( パワーアンプ内 )

## 13.BOUTIQUE CL (BTQ CL)

これもBOUTIQUE ODと同じメーカーの、完全受注生産でハンド・メイドされる高級アンプのクリーンチャンネルをモデリングしました。最高級のプティック・アンプを何種類か試聴しましたが、これがダントツでした。ケバケバしい赤いカバーはお世辞にもセンスがいいとは言えませんが、クリーンサウンドは抜群です。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音は、シングル・コイル・ピックアップに最適です。また、ピッキング・スタイルやピック・アップの選択に対する反応も早く、コードを弾いたときのサウンドはしびれるように優雅で華やかです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3( プリアンプ内 ) 6L6 x 4( パワーアンプ内 )

## 14. BLACK 2x12 (BLK 2X12)

モデルとなったデュアル・チャンネルのフロント・ブラック・アンプはカントリーやブルース・プレイヤー必須の2x12コンボです。深みのあるピアノ風ベース音を含んだタイトなクリーンサウンドです。

トーンが素直なだけでなく、特にシングル・コイル・ピックアップで使用するとクラシックなシカゴ・ブルースのトーンを生み出します。オリジナルさを忠実に再現するために、ボリュームをいっぱいに上げると低域が「しゃがれた」サウンドになります。このクラシックなBLACK 2x12オーバードライブを再現するには、本機の[GAIN]と[VR GAIN]をフルアップ、[BASS]は完全に絞込み、[MIDDLE]はフルアップ、[TREBLE]は好みの位置に設定してください。オリジナル・アンプのEQコントロールがプリアンプのゲイン・ステージ前に位置しているので、このように中域を上げることで、中域内のディストーションが強調され、その結果、愛すべき、歌うようなブルース・トーンが生まれます。

オリジナル・モデルにはプレゼンス・コントロールはなく、ブライツ・スイッチがありました。本機では[PRESENCE]コントロールがブライツ・スイッチの役目を果たします。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4 & 12AT7(別名ECC81) x 2(プリアンプ内) 6L6 x 4(パワーアンプ内)

**HINT** ペダル・セクションのACOUSTICと組み合わせるとベストです。

## 15. TWEED 1x12 (TWD 1X12)

1958年カリフォルニア州フラートンでツイード地にくるまれて誕生したアンプをモデリングしました。18W、1x12のシンプルなチューブ・コンボです。ボリューム・ツマミの他にはトーン・ツマミが一つあるだけで、これでトレブルのカット/ブーストを調整しました。本機の[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]を使って次の要領でオリジナル・モデルのトーンを再現します。

オリジナル・モデルのトーン・ツマミを絞った状態を再現するときは、[BASS]コントロールをいっぱい上げ、[TREBLE]と[MIDDLE]コントロールを9時の方向に設定します。( [PRESENCE]コントロールを0に設定 )

オリジナル・モデルのトーン・ツマミをいっぱい上げた状態を再現するときは、[TREBLE]を上げ [MIDDLE]と[BASS]コントロールを9時の方向に設定します。( [PRESENCE]コントロールを0に設定 )

**HINT** オリジナル・アンプにはプレゼンス・コントロールがないので、本機の[PRESENCE]コントロールが0のときにオリジナル・サウンドが再現されますが、好みによって[PRESENCE]コントロールを上げると、サウンドにきらめきが加わります。

オリジナルの音色はクリーン・サウンドでは比較的単純ですが、オーバードライブさせると倍音豊かな、うなるようなサウンドになり、[GAIN]と[VR GAIN]コントロールを目いっぱい上げると、特にシングル・コイル・ピックアップで演奏時には、50年代や60年代のロカビリー、ロックン・ロール・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 1(プリアンプ内) 5Y3GT x 1(整流器) 6V6 x 2(パワーアンプ内)

---

## 16. TWEED 4x10 (TWD 4X10)

もともとベース・ギター用に設計された1959年製4x10コンボ・アンプをモデリングしました。スムーズで抜けの良いオーバードライブ・サウンドは、リズム・アンド・ブルースに最適で、6弦プレイヤー達はすぐにこのアンプに飛びつきました。またピッキングの強弱やギターのボリュームに敏感に反応します。つまり、アンプをいっぱいドライブしているときにギター・ボリュームを落とすと、クリーンで豊かな音色が出ます。またピッキングの強弱によっては、一つ一つの音やコードのクリーン度/ディストーションの程度を変えたりすることができます。

もう一つの音色特性は、アンプをハードにドライブしたときに整流器GZ34が音に加える、クラシックなチューブアンプの「スポンジ感のある」サウンドです。[GAIN]と[VR GAIN]コントロールをフルアップしハードにピッキングすると、最初のアタックから音がポワーンと弛むのが次第にわかってくるはずです。

**HINT** [MIDDLE]と[TREBLE]コントロールは互いに反応しあうので、[MIDDLE]コントロールを高く設定すると、自動的にトレブルが強調されます。これを相殺するために[TREBLE]コントロールを若干下げるといいでしょう。逆に[MIDDLE]コントロールを低く設定するとトレブルが弱くなるので、[TREBLE]コントロールを若干上げます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 2(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器)、5881s x 2(パワーアンプ内)



## B. CABINET(キャビネット)モデル

### キャビネット / スピーカーの精度

キャビネット・モデルも、アンプ・モデルに匹敵する精度で、オリジナルのスピーカー・キャビネットを調べ上げ、緻密な、そして忠実な再現を可能にします。ご存知のように、実際の真空管アンプの出力は、それが駆動するスピーカーのさまざまなインピーダンス曲線に深く関係しています。暖かみのあるサウンド、パンチの効いたサウンド、あるいは心地よいサウンドが出せるか出せないかはこのことに大きく依存します。スピーカー・キャビネットの設計というのは、単に周波数特性を考えるだけでなく、トランジェント・レスポンス(音程変化に対するスピーカーの追従性)アンプ出力に対するスピーカーのインピーダンス曲線などの相互関係を設計することなのです。さらに、キャビネット設計ではエンクロージャー(キャビネット)の実際のサイズ、その材質や厚さ、オープンタイプかセミオープンタイプなのか、クローズドバックなのかなど、十分考慮しなければなりません。これらの要素をToneLabSEはValve Reactor技術による回路とモデリング技術によって解決したのです。

では、ToneLabSEのために特別に選び、モデリングした各キャビネットについて説明します。

### 1. TWEED 1x8 (TWD 1X8)

このキャビネットモデルの8インチ、3.2 のアルニコスピーカーは、6V6出力管を持つシンプルな構成のアンプに搭載されてるものです。誰もが間違い無くこのアンプのサウンドを耳にしているはずですが、実際どのようなアンプなのかは気づかれなかったかも知れません。スピーカー自身はその大きさを偽って、驚くほどレンジの広いサウンドです。低域は深く暖かく、高域はクリーンにきらびやかですが、通常ギター用に使われる8インチスピーカーの様な耳につく音色ではありません。

### 2. TWEED 1x12 (TWD 1X12)

このスピーカー・キャビネットはToneLabSEのTweed 1x12アンプ・モデルの“つれ”です。名前が示すとおり、12インチ・スピーカー1発を使用していますが、これは米国製アルニコ・マグネットのピッチェージ・ラウド・スピーカーとして有名なものです。

### 3. TWEED 4x10 (TWD 4X10)

同じく米国製アルニコ・マグネット・スピーカーを内蔵するこのキャビネットは、ToneLabSEのTWEED 4x10アンプ・モデルのパートナーとなります。オープン・バックのこのキャビネットは、4つの10インチ、8 のスピーカーを使用し、パラレル接続によって2 のインピーダンスになります。もともとベース・アンプとして設計されたこのスピーカー・キャビネットは様々なスタイルのロックに使用できます。

### 4. BLACK 2x10 (BLK 2X10)

このコンボ・アンプはToneLabSEのアンプ・モデルにはありませんが、開発チームはこの60年代中期のカリフォルニア州フラートンで作られた、US製セラミック・マグネットの10インチ・スピーカー2発を搭載した35Wオープンバック・コンボのトーンが好みなので採用しました。ブルースやジャズ、カントリーに最適です。他のキャビネット・モデル同様、どのアンプ・モデルとも組み合わせられ、面白いトーンのコンビネーションを作り出すことができるでしょう。お勧めできる組み合わせはp.34の表をご覧ください。

---

## 5. BLACK 2x12 (BLK 2X12)

これまでの説明で多分気付かれたでしょうが、このスピーカー・キャビネットはBLACK 2x12アンプ・モデルに伴ってモデリングされたもので、12インチのセラミック・マグネット・スピーカーを2発搭載した60年代中期の米国製です。8スピーカーですが、パラレルにワイヤリングされて4の負荷になっています。これらのスピーカーは様々なスタイルの音楽で数えられない程のレコーディングに使われ続けてきましたが、カントリーやブルースで最も使用されました。

## 6. VOX AC15 (AC15)

英国イプスウィッチのセレクション製、名高い「VOXブルー・アルニコ・スピーカー」を使用した12インチ1発のオープン・バック・コンボで、最近リイシューされたAC15TBのスピーカー・キャビネットのモデリングです。このスピーカーは8、15ワットで、1x12オープンバックのキャビネットには非常に充実したものです。もちろん有名なVOXの「チャイム」のような高域を生むのに貢献しています。

## 7. VOX AC30 (AC30)

AC15の2倍のパワー、2発の12インチVOXブルー・アルニコ・スピーカーを16用にシリアルにワイヤリングしたこのスピーカー・キャビネットは、さらにVOXトーンの素晴らしさが加わります。今回開発チームは60年代のオリジナル・スピーカーのサウンドをモデリングしました。スピーカーは年を重ねるにつれて音色が変化しますが、AC15とAC30のキャビネット・モデルでは、年代の違う同じスピーカーで、違ったサウンドを与えることができます。

## 8. VOX AD412 (AD412)

このスピーカー・キャビネットは最近のVOX製品の一つです。疑いなく良い音を出すキャビネットなので採用しました。ネオジウム・マグネットを採用したカスタム・デザインのセレクション製スピーカーを使用し、特殊な音響設計技術を採用した4x12キャビネットです。どのアンプ・モデルとも組み合わせ使用できますが、アンプ・ヘッドのモデルと特に合います。

## 9. UK H30 4x12 (UK H30)

英国製、60年代後期の30ワット・スピーカーを搭載したヘビー・デューティなキャビネットをモデリングしました。過去、これらのキャビネットは数えられない程のクラシック・ロックのレコーディングに使われてきました。現在、ToneLabSEを使えばその素晴らしいサウンドを直にレコーディングできるのです。

## 10. UK T75 4x12 (UK T75)

この4x12モデルは、現行の75ワット英国製スピーカーを搭載した英国製の黒い箱として有名です。よく積み上げられているのを見ますが、恐らく今までで最も売られたギター・キャビネットで、ほとんどのスタイルのロックに適します。

## 11. US V30 4x12 (US V30)

これは、RECTOアンプ・モデルと同じカリフォルニア出身の「黒い野獣」キャビネットのモデリングです。英国製の「Vintage」と名づけられたスピーカーを使用しています。深い低域と、輪郭のある高域で知られ、特に最近のニューメタル愛好者には非常に人気があります。

## アンプとキャビネットの組み合わせ例

基本的にはアンプ・モデルとキャビネット・モデルを自由に組み合わせて多様なサウンドを作ることができますが、ここでは、本流ともいえる代表的な組み合わせを紹介します。

アンプ・モデル	組み合わせキャビネット・モデル
TWEED 1x12	TWEED 1x12
TWEED 4x10	TWEED 4x10
BLACK 2X12	BLACK 2x12
AC15	VOX AC15
AC15TB	VOX AC15
AC30	VOX AC30
AC30TB	VOX AC30
UK BLUES	UK H30
UK 68P	UK H30
UK '80S	UK T75
UK '90S	UK T75
UK MODERN	UK T75 or US V30
US HiGAIN	US V30 or UK T75
RECTO	US V30
BOUQUET OD	UK H30を推奨
BOUQUET CLN	UK H30を推奨

**NOTE** VOX AD412は最新製品のため、モデルとアンプとの過去の接続例はありません。(2003.9月現在)

### その他の推奨例

モデルとしてとりあげたオリジナル・アンプを出しているいくつかのメーカーには、異なるスピーカー構成で同様なアンプを搭載した製品があります。ここではそれらのアンプに近づけるための組み合わせ例を紹介します。

アンプモデル	キャビネットモデル	同等モデル
BLACK 2x12	BLACK 2x10	Blackface Vibroluxタイプ・コンボ
BLACK 2x12	TWEED 4x10	Blackface Superタイプ・コンボ
TWEED 1x12	BLACK 2x10	Tweed Super
UK BLUES	VOX AC30	初期のBluesBreakerタイプ・コンボ
VOX AC15	VOX AC30	VOX AC15 Supertwin

これらの組み合わせは、定格出力、出力トランス、スピーカー・メーカーとタイプなどがオリジナルの製品のものとは違うために、あくまでも近似であるということに注意してください。

ToneLabSEは、アンプとキャビネットの組み合わせやセッティングなどを、セレクターを回すだけで簡単に切り替えることができ、スピーカーを破損することはありません。

**NOTE** 使い方によっては破損する場合がありますので十分に注意してください。

簡単に様々な組み合わせができるので、本当に気に入ったサウンドを得るには自分でいろいろ組み合わせを試し、そして判断するしかありません。良い結果も悪い結果もあるでしょうが、アンプとキャビネットの組み合わせに決まりはないので、自由な発想で、気に入ったサウンドを手に入れてください。

**NOTE** 製品名はすべて該当所有者の商標であり、VOX社との関わりはいっさいありません。なお、製品名及び説明内容は、本機開発中に調査対象となった製品、あるいは合成可能なサウンド・モデルを説明するためにのみ使用しています。

## C. PEDAL(ペダル)エフェクト

ペダル・エフェクトはアンプの手前に配置されています。

(\*)： エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。

PEDAL	DRIVE	LEVEL	TONE	MANUAL	TYPE	ORDER
COMP	SENS	LEVEL	ATTACK			
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0			
ACOUSTIC	BODY	BASS	TREBLE			
	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0			
VOX WAH		CLOSE	OPEN	MANUAL	TYPE	ORDER
		1.0~10.0	1.0~10.0	1.0~10.0	1.0~10.0	847/848
AUTO WAH	SENS	POLARITY	ATTACK		TYPE	ORDER
	0.0~10.0	uP/dn	1.0~10.0		847/848	PrE/PoS
U-VIBE	SPEED	DEPTH	MIX			
	1.00~10.00[Hz]	0.0~10.0	0.0~10.0			
BLK/ORG PHASE	SPEED	DEPTH	RESO	MANUAL	TYPE	ORDER
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	bL/Or1/Or2	PrE/PoS
OCTAVE	DIRECT	1OCTAVE	2OCTAVE			
	0.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0			
RING MODULATOR	DIRECT	EFFECT	FILTER	MANUAL		
	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0		
TREBLE BOOST TUBE OD SUPER OD BOUTIQUE FAT DIST ORANGE DIST FUZZ OCTAFUZZ	DRIVE	LEVEL	TONE			
	1.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0			

### 1. COMP

粒のそろったスムーズでクリーンなフレーズを弾きたいとき、リードギターにほんのわずかなサスティーンをかけたいときはCOMPが最適です。パーカッシブなクリーンサウンドで人気の高いコンプレッサー・ペダルをモデリングしました。80年代、90年代のポップやファンクのリズムにピッタリです。また、歌うようなメロウなサスティーンも得られます。

- [1] “ SENS ”      1.0...10.0      \* 感度を調整します。右に回すほどコンプレッション、サスティーンが増加します。
- [2] “ LEVEL ”      0.0...10.0      \* 出力レベルを調整します。
- [3] “ ATTACK ”      1.0...10.0      \* アタックの強さを調整します。

## 2. ACOUSTIC

ギターとアンプのスイッチを入れないアコースティックなサウンドを弾きたいときに最適です。エレキ・ギター音をアコースティック・ギターの音に変換するシミュレーターです。シングル・コイル(つまり低出力)のネック(フロント)ピックアップでの使用をお奨めします。

- [1] “ BODY ”            1.0...10.0    \* ボディの共振を調整します。BASSとバランスを取りながら調整してください。
- [2] “ BASS ”            0.0...10.0    \* 低域の音色を調整します。
- [3] “ TREBLE ”         0.0...10.0    \* 高域の音色を調整します。

## 3. VOX WAH

伝説のVOXワウ・ペダルV847,V848 Clyde McCoy モデルの二つを贅沢にモデリングしました。喉からしぼり出すような独特のトーンにより、多くのプロ・ミュージシャンの人気の的となったペダルです。うまく使い分ければ、すすり泣くギター音から、何かに取り憑かれた男の遠吠えまで自在なサウンドが楽しめます。CLOSE, OPEN つまみでワウを閉じた時、開いた時の音色を調整できるので、更に幅の広い音作りができます。

- [2] “ CLOSE ”         1.0...10.0    ワウを閉じた状態での音色を調整します。
- [3] “ OPEN ”          1.0...10.0    ワウを開いた状態での音色を調整します。
- [4] “ MANUAL ”       1.0...10.0    \* ワウの開き具合を調整します。
- [5] “ TYPE ”            847,848        ワウのタイプをV847, V848 CLYDE McCOY モデルから選択します。
- [6] “ ORDER ” PrE(PRE),PoS(POST)    接続順を選択します。PRE/POST でAMP MODEL の前/後に接続されます。

**HINT** VOX WAHを選択するとエクスプレッション・ペダル1は自動的にMANUALつまみに割り当てられます。多くのギタリストがよく使うワウは、ワウ・ペダルの範囲内で「ツボ」を見つけて、いつもその位置にしておくことです。これは「スタック・ワウ」(引っかかったワウ)とも呼ばれたりしますが、その特有のサウンドはどんなミックス状態でも音抜けがよいので、とても効果的です。

## 4. AUTO WAH

ピッキングのダイナミクス、つまり弦を弾く強さに追従して自動的に効果のかかるオート・ワウのモデリングです。クセがあるけれど便利なエフェクトです。ワウのタイプは VOX WAH 同様、V847 と V848 から選択できます。

- [1] “ SENS ”            0.0...10.0    \* ギターの音量に対する動作感度を調整します。
- [2] “ POLARITY ” up(UP), dn(DOWN)    動作方向を調整します。
- [3] “ ATTACK ”        1.0...10.0    \* 反応の速さを調整します。
- [5] “ TYPE ”            847,848        ワウのタイプをV847, V848 CLYDE McCOY モデルから選択します。
- [6] “ ORDER ” PrE(PRE),PoS(POST)    接続順を選択します。PRE/POST でAMP MODEL の前/後に接続されます。

## 5. U-VIBE

かの有名なフェイス/ビブラート、Univox Uni-Vibeをモデリングしました。このエフェクトは回転スピーカーをシミュレートし、とても誘惑的で情感のあるトーンを作り出します。このペダルを作り出した人は、実はToneLabSEのパワーアンプに採用したValve Reactor技術を生み出した人でもあるのです。

- [1] “ SPEED ” 1.00...10.00[Hz]    \* ビブラートの速さを調整します。



---

## 10.TUBE OD

ケバケバしい、趣味の悪い緑色のボックスに入ったオーバードライブ・ペダルをモデリングしたもので、その作り出すサウンドの温かみが何とも言えず素晴らしいため、伝統のクラシックなエフェクトとなっています。

## 11.SUPER OD

黄色の日本製オーバードライブ・ペダルのモデリングです。ブースターとして好んで使用されます。

## 12.BOUTIQUE

ギリシャ神話に登場する半人半馬の名前を持つオーバードライブをモデリングしました。ゲインを下げるとギターの本音を損なわないブースターとして、ゲインを上げると豊かなミッドレンジを持つオーバードライブとして使用できます。トーンは12時が標準ですが、積極的に調整してください。

## 13.FAT OD

この世で最も嫌われているネズミを名称に持つペダルをモデリングしました。倍音豊かでスムーズなディストーションが得られます。

## 14.ORANGE DIST

日本製、オレンジ色のボックスに入ったクラシックなディストーションです。

## 15.FUZZ

レトロっぽく、あつかましくて荒削り、そんなイメージを作ります。

## 16.OCTAFUZZ

1オクターブ上の音程を付加する伝説のファズをモデリングしました。良い効果を得るには必ずフロントピックアップを使用してください。

- |               |            |                     |
|---------------|------------|---------------------|
| [1] “ DRIVE ” | 1.0...10.0 | * 歪み(ブースト)の量を調整します。 |
| [2] “ LEVEL ” | 0.0...10.0 | * 出力レベルを調整します。      |
| [3] “ TONE ”  | 1.0...10.0 | * 音色を調整します。         |

## D. MOD(モジュレーション)エフェクト

キャビネットの後ろに配置されるモジュレーション系のエフェクトを設定します。11種類のモジュレーション系エフェクトから1つを選び設定します。

(\*): エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。

MODULATION	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OPTION	MIX
CLASSIC CHORUS	SPEED	DEPTH		MANUAL	MODE	
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0		1.0~10.0	1,2,3	
STEREO CHORUS	SPEED	DEPTH		MANUAL		MIX
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0		1.0~10.0		0.0~10.0
CLASSIC FLANGER	SPEED	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	OFFSET	MIX
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0
BI CHORUS	SPEED1	DEPTH	RESONANCE	SPEED2	MODE	MIX
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0	0.0~10.0	0.100~10.00[Hz]	S/P1/P2/P3	0.0~10.0
DUO PHASE	SPEED1	DEPTH	RESONANCE	SPEED2	MODE	
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0	0.0~10.0	0.100~10.00[Hz]	S1/S2/P1/P2/P3	
TEXTREM	SPEED	DEPTH			SPREAD	
	1.00~10.00[Hz]	0.0~10.0			0.0~10.0	
ROTARY	SPEED1	DEPTH		SPEED2	ACCEL	
	0.80~10.0[Hz]	0.0~10.0		0.80~10.0[Hz]	1.0~10.0	
PITCH SHIFTER	PITCH	FINE		TRACKING	DIRECT	EFFECT
	-24~24	-50~50		10~150[ms]	0.0~10.0	0.0~10.0
MOD DELAY	SPEED	DEPTH	FEEDBACK	TIME	MODE	MIX
	0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	1,2,3	0.0~10.0
FILTRON	ATTACK	DEPTH	RESONANCE	MANUAL	POLARITY	SENS
	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	1.0~10.0	uP/dn	0.0~10.0
TALK MOD	ATTACK	DEPTH	TYPE	MANUAL	POLARITY	SENS
	1.0~10.0	0.0~10.0	A-E-O-U	1.0~10.0	uP/dn	0.0~10.0

### 1. CLASSIC CHORUS(CL CHORUS) Mono In/Mono Out 1(Mode=1,3) Mono In/Mono Out 3(Mode=2)

コーラスとビブラートの2つのモードを持ち、ギターアンプに内蔵されていることで最も有名なコーラスをモデリングしました。CHORUS/VIBRATOの切り替えは有りませんが、SPEEDとDEPTHつまみでどちらのサウンドも作り出すことができ、実物よりも多彩な音色調整が可能。出力のビブラートモードは、エフェクト音だけを出力するピッチ・ビブラートを可能にします。

- [1] “ SPEED ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.0 \* モジュレーションの深さを調整します。
- [4] “ MANUAL ” 1.0 ~ 10.0 \* スイープの中心周波数を調整します。DEPTHが10に設定されているとき、MANUALは動作しません。
- [5] “ MODE ” 1,2,3 出力仕様を選択します。  
 1:モノラル出力。  
 2:エフェクトが右、ドライが左から出力されるステレオモード。  
 3:エフェクトのみ出力される、ビブラートモード。MANUALを10に設定すると発音の遅れが最小になります。



## 2. STEREO CHORUS(ST CHORUS) Mono In/Stereo Out 1

黄色い箱に入った、ステレオコーラス。右側出力でエフェクト音を逆相にすることでステレオ感を出し、CLASSIC CHORUS のステレオ感とは一風違った広がりがあります。

- [1] “ SPEED ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* モジュレーションのスピードを調整します。
- [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.0 \* モジュレーションの深さを調整します。
- [4] “ MANUAL ” 1.0 ~ 10.0 \* スイープの中心周波数を調整します。DEPTH が10に設定されているとき、MANUAL は動作しません。
- [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* エフェクト音のミックス量を調整します

## 3. CLASSIC FLANGER(CL FLANG) Mono In/Mono Out 1

「両手タッピングのゴッドファーザー」と多くの人が崇める現代の有名ギタリストを生んだ、真にクラシックなアナログ・フランジャーのモデリングです。

- [1] “ SPEED ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* モジュレーションのスピードを調整します。
  - [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.0 \* モジュレーションの深さを調整します。
  - [3] “ RESO ” 0.0 ~ 10.0 \* レゾナンスの量を調整します。
  - [4] “ MANUAL ” 1.0 ~ 10.0 \* スイープの中心周波数を調整します。DEPTH が10に設定されているとき、MANUAL は動作しません。
  - [5] “ OFFSET ” 0.0 ~ 10.0 LFO のスタート位置を設定します。“ FLN TRIG ”をCONTROLペダルに割り当てると、ペダルを踏む度に、LFO がOFFSET で設定された位置にリセットされます。BYPASS を解除したときにここで設定した位置からLFO がスタートします。(p.53コントロール・ペダルの設定)
  - [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* エフェクト音のミックス量を調整します。
- CONTROLペダル FLN TRIG CONTROLペダルの設定で“ FLN TRIG ”を選択するとペダルを踏むたびに、LFOがOFFSETで設定された位置にリセットされます。(p.53コントロール・ペダルの設定)

## 4. BI CHORUS Mono In/Mono Out 1 (Mode=S) Stereo In/Stereo Out 1 (Mode=P1,P2,P3)

ToneLab SE 独自のコーラスです。CHORUS1,CHORUS2 の2基のコーラスを内蔵し、シリアル、パラレルに接続を変えられるだけでなく、2つのLFO の同期、非同期も設定できます。素晴らしく広がりのあるサウンドから、複雑なモジュレーションをもつ変態的なフランジャー効果まで幅広い音色を作り出します。

- [1] “ SPEED1 ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* CHORUS1 のモジュレーション・スピードを調整します。
- [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.0 \* CHORUS1/2 のモジュレーションの深さを調整します。
- [3] “ RESO ” 0.0 ~ 10.0 \* CHORUS1/2 のレゾナンスの量を調整します。
- [4] “ SPEED2 ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* CHORUS2 のモジュレーション・スピードを調整します。

**NOTE** MODE がP2, P3に設定されているときは効果がありません。

- [5] “ MODE ” S/P1/P2/P3 CHORUS1/2 の接続やLFOを設定します。  
S:CHORUS1/2をシリアル接続します。  
P1:CHORUS1/2をパラレルで動作させます。  
P2:CHORUS1/2をパラレル動作させ、それぞれのLFOを同期させるモードです。  
P3:CHORUS1/2をパラレル動作させ、それぞれのLFOを反転同期させるステレオモードです。

**NOTE** P2,P3に設定時、スピードはSPEED1つまみで操作します。

- [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* エフェクト音のミックス量を調整します。

---

## 5. DUO PHASE(DUO PHAS) Mono In/Mono Out 2 (Mode=S1,S2) Stereo In/Stereo Out 2 (Mode=P1,P2,P3)

PHASER1, PHASER2 の2基の6段フェーザーを内蔵した素晴らしいフェーザー。シリアル( 擬似12段フェーザー!) 平行に接続を変えられるだけでなく、2つのLFOの同期、非同期も設定できます。

- [1] “ SPEED1 ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* PHASER1 のモジュレーション・スピードを調整します。
- [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.0 \* PHASER1/2 のモジュレーションの深さを調整します。
- [3] “ RESO ” 0.0 ~ 10.0 \* PHASER1/2 のレゾナンスの量を調整します。
- [4] “ SPEED2 ” 0.100 ~ 10.00[Hz] \* PHASER2 のモジュレーション・スピードを調整します。

**NOTE** MODE が、S2,P2,P3に設定されているときは、効果がありません。

- [5] “ MODE ” S1,S2,P1,P2,P3 PHASER1/2 の接続やLFOを設定します。  
S1:PHASER1/2 をシリアル接続します。  
S2:PHASER1/2 をシリアル接続し、それぞれのLFO を同期させる、擬似12段フェーザーモードです。  
P1:PHASER1/2 を平行動作させます。  
P2:PHASER1/2 を平行動作させ、それぞれのLFO を同期させるステレオモードです。  
P3:PHASER1/2 を平行動作させ、それぞれのLFOを反転で同期させるステレオモードです。

**NOTE** P2,P3に設定時、スピードはSPEED1つまみで操作します。

## 6. TEXTREM Stereo In/Stereo Out 2

BLACK 2x12に搭載されている評判の高いトレモロ回路のモデリングです。SPREADの設定で、左右に広がるバニング効果も得られます。

- [1] “ SPEED ” 1.00 ~ 10.00[Hz] \* トレモロのスピードを調整します。
- [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.0 \* トレモロの深さを調整します。
- [5] “ SPREAD ” 0.0 ~ 10.0 左右の広がり感を調整します。

## 7. ROTARY Mono In/Stereo Out 2

ステレオ仕様のロータリー・スピーカーのモデリングです。スピードを調整すると、実際のロータリー・スピーカーのように一定時間後に設定したスピードに到達します。これは、スピーカーの回転を制御するモーターが速度を切り替えるのに数秒かかるのを再現しているからです。

- [1] “ SPEED1 ” 0.80 ~ 10.0[Hz] \* スピーカーの回転スピードを調整します。CONTROLペダルに “ ROT SPD ”を割り当てたときの SLOW スピードとなります。CONTROLペダルを使用しない場合もこのつまみは有効です。(p.53コントロール・ペダルの設定)
  - [2] “ DEPTH ” 0.0 ~ 10.00 \* モジュレーションの深さを調整します。
  - [4] “ SPEED2 ” 0.80 ~ 10.0[Hz] \* スピーカーの回転スピードを調整します。CONTROLペダルに “ ROT SPD ”を割り当てたときの、FAST スピードとなります。CONTROLペダルを使用しない場合は無効です。(p.53コントロール・ペダルの設定)
  - [5] “ ACCEL ” 1.0 ~ 10.0 \* 回転スピードの変化にかかる時間を調整します。値を上げるほど、変化に時間がかかります。
- CONTROLペダル ROT SPD CONTROLペダルの設定で “ ROT SPD ”を選択すると、SWITCHのペダルを踏むたびに回転スピードをSLOW/FAST (SPEED1/SPEED2)を切り替えることができ、通常のロータリースピーカーと同様にコントロールすることができます。(p.53コントロール・ペダルの設定)

## 8. PITCH SHIFTER(PITCH) Mono In/Mono Out 1

高級ラックマウント・タイプのシグナル・プロセッサーに匹敵する、上下2オクターブの変化幅を持つピッチシフターです。

**TIPS:** PITCH つまみをエクスプレッション・ペダルにアサインすると、ペダルでピッチの変化をコントロールすることができます。(p.50エクスプレッション・ペダルによるコントロール)

- |                  |              |   |
|------------------|--------------|---|
| [1] “ PITCH ”    | -24 ~ 24     | * ピッチを100セント単位で調整します。   |
| [2] “ FINE ”     | -50 ~ 50     | * ピッチを1セント単位で調整します。   |
| [4] “ TRACKING ” | 10 ~ 150[ms] | ピッチ・シフターのトラッキング( 追従性能 )を調整します。PITCH の設定が0に近いときは短く、± 24 に近いときは長めに設定するのが効果的です。ピッチシフト音の音色を聞きながら、弾き難くならない程度に調整してください。 |
| [5] “ DIRECT ”   | 0.0 ~ 10.0   | * ダイレクト音のレベルを調整します。   |
| [6] “ EFFECT ”   | 0.0 ~ 10.0   | * エフェクト音のレベルを調整します。   |

## 9. MOD DELAY(MOD DLY) Mono In/Mono Out 1 (Mode=1) Mono In/Mono Out 3 (Mode=2) Mono In/Stereo Out 1 (Mode=3)

ディレイ音にビブラート効果を付加することのできるアナログ・ディレイを再現しました。実物は400ms のディレイタイムを持ちますが、暖かい音色はそのままに 1400ms まで拡張し、DELAY セクションのサブ・ディレイとしても使用可能です。また CHORUS/VIBRATO スイッチを 0.1 ~ 10Hz の可変範囲を持つつまみに置き換えたことで、実物以上に多彩な音色が得られます。

- |                  |                   |   |
|------------------|-------------------|---|
| [1] “ SPEED ”    | 0.100 ~ 10.00[Hz] | * モジュレーションのスピードを調整します。  |
| [2] “ DEPTH ”    | 0.0 ~ 10.0        | * モジュレーションの深さを調整します。  |
| [3] “ FEEDBACK ” | 0.0 ~ 10.0        | * フィードバックの量を調整します。  |
| [4] “ TIME ”     | 1.0 ~ 10.0        | * ディレイ・タイムを設定します。   |
| [5] “ MODE ”     | 1,2,3             | 出力仕様を選択します。<br>1:モノラル出力。<br>2:エフェクトが右、ドライが左から出力されるステレオモード。<br>3:ドライ+エフェクトが左から、ドライ-エフェクトが右から出力される逆相ステレオモード |
| [6] “ MIX ”      | 0.0 ~ 10.0        | * エフェクト音のミックス量を調整します。   |

## 10.FILTRON Stereo In/Stereo Out 2

ギターの入力に応じてフィルターの開き具合が変わる。エンベロープ・コントロールド・フィルター(ワウ)です。エクスプレッション・ペダルを MANUAL つまみに割り当てることで、KORG の TRAVELER ペダルの再現も可能です。(このときDEPTHつまみは0に設定してください。)

- |                  |                 |  |
|------------------|-----------------|--|
| [1] “ ATTACK ”   | 1.0 ~ 10.0      | * 反応の速さを調整します。                                       |
| [2] “ DEPTH ”    | 0.0 ~ 10.0      | * 動作の深さを調整します。                                       |
| [3] “ RESO ”     | 0.0 ~ 10.0      | * レゾナンスの量を調整します。                                     |
| [4] “ MANUAL ”   | 1.0 ~ 10.0      | * カットオフ周波数を設定します。DEPTH が10に設定されているとき、MANUAL は動作しません。 |
| [5] “ POLARITY ” | uP(UP),dn(DOWN) | 動作方向を調整します。  |
| [6] “ SENS ”     | 0.0 ~ 10.0      | * ギターの音量に対する動作感度を調整します。                              |

---

## 11.TALK MOD Mono In/Mono Out 2

ギターの入力に応じて「声」の具合が変わる。エンベロープ・コントロールド・トーキング・モジュレータです。

**HINT** エクスプレッション・ペダルを MANUAL つまみに割り当てることで、ペダルで母音のコントロールが可能です。(このときDEPTHつまみは0に設定してください。)

- |                  |                 |  |
|------------------|-----------------|--|
| [1] “ ATTACK ”   | 1.0 ~ 10.0      | * 反応の速さを調整します。   |
| [2] “ DEPTH ”    | 0.0 ~ 10.0      | * 動作の深さを調整します。   |
| [3] “ TYPE ”     | A-E ~ O-U       | 変化する母音を次から設定します。<br>‘ A ⇄ E ; A ⇄ I ; A ⇄ O ; A ⇄ U ; E ⇄ I ;<br>‘ E ⇄ O ; E ⇄ U ; I ⇄ O ; I ⇄ U ; O ⇄ U ’ |
| [4] “ MANUAL ”   | 1.0 ~ 10.0      | * 声質を調整します。DEPTHを10に設定したときは、MANUALは動作しません。   |
| [5] “ POLARITY ” | uP(UP),dn(DOWN) | 動作方向を調整します。  |
| [6] “ SENS ”     | 0.0 ~ 10.0      | * ギターの音量に対する動作感度を調整します。  |

## E. DELAY(ディレイ)エフェクト

キャビネットの後ろに配置されるディレイ系のエフェクトを設定します。11種類のディレイ系エフェクトから1つを選び設定します。

(\*): エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。

DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE	DUCKING	OPTION	MIX
ECHO PLUS	TIME	FEEDBACK	STONE		LODAMP	MIX
	26~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0		0.0~10.0	0.0~10.0
MULTI HEAD	TIME	FEEDBACK	STONE		MODE	MIX
	1~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0		1,2,3,4,5	0.0~10.0
ANALOG DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE			MIX
	1~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0			0.0~10.0
MOD DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE		SPEED	MIX
	3~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0		0.100~10.00[Hz]	0.0~10.0
SWEEP DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE		SENS	MIX
	26~2000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0		0.0~10.0	0.0~10.0
STEREO DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE	DUCKING		MIX
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0		0.0~10.0
CROSS DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE	DUCKING		MIX
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0		0.0~10.0
TAP DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE	DUCKING		MIX
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0		0.0~10.0
RHYTHM DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE	DUCKING	RHYTHM	MIX
	1~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0	0.0~10.0	1,2,..11	0.0~10.0
HOLD DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE			MIX
	1~8000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0			0.0~10.0
REVERSE DELAY	TIME	FEEDBACK	STONE			MIX
	26~4000[ms]	0.0~10.0	1.0~10.0			0.0~10.0

### 1. ECHO PLUS Mono In/Mono Out 1





最も評判の高いアナログ・テープ・エコーのモデリングです。もともとエコーは再生ヘッドで作られ、ディレイ・タイムはモーターのスピードを変化させて設定します。プロ・ミュージシャンがこの「原始的な」テープ・エコーを好むのは、温かく暗いエコーを生むからです。

- [1] “ TIME ” 26 ~ 2000[ms] \* ディレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0 \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ” 1.0 ~ 10.0 \* ディレイ音の音色を調整します。
- [5] “ LODAMP ” 0.0 ~ 10.0 \* 低域の減衰量を調整します。
- [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* ディレイ音のミックス量を調整します。

---

## 2. MULTI HEAD (MULTI HD) Mono In/Mono Out 1

3ヘッドのテープ・エコーのモデリングです。各ヘッドから生じるそれぞれのエコーにはフィードバック・ループがあり、複雑で温かい「マルチ・タップ」エコー効果が得られます。

- [1] “ TIME ”      1 ~ 2000[ms]      デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0      \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ”      1.0 ~ 10.0      \* デレイ音の音色を調整します。
- [5] “ MODE ”      1,2,3,4,5      使用するヘッドの組み合わせを設定します。
  - 1: 通常のエコー。
  - 2:  「タ・タ・タ」というリズムでデレイ音を再生。
  - 3:  「タツ・タ・タ」というリズムでデレイ音を再生。
  - 4:  「タ・タ・ツタ」というリズムでデレイ音を再生。
  - 5:  「タ・タ・タ・タ」というリズムでデレイ音を再生。
- [6] MIX            0.0 ~ 10.0      \* デレイ音のミックス量を調整します。

## 3. ANALOG DELAY(ANALG DL) Mono In/Mono Out 1

テープエコーに代わり、バケット・ブリッジ・デバイス (BBD) を使用して小型で信頼性のあるデレイ・マシーンとして登場したのが ANALOG DELAY。暖かく歪んだ音の特徴です。

- [1] “ TIME ”      1 ~ 2000[ms]      \* デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0      \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ”      1.0 ~ 10.0      \* デレイ音の音色を調整します。
- [6] “ MIX ”      0.0 ~ 10.0      \* デレイ音のミックス量を調整します。

## 4. MOD DELAY(MOD DLY) Mono In/Mono Out 1

KORG の初期のDIGITAL DELAY SDD-3000 をモデリングしています。LFO によるモジュレーションで、TIME を短かく設定するとコーラスやフランジャーの効果を作ることもできます。

- [1] “ TIME ”      3 ~ 2000[ms]      \* デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0      \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ”      1.0 ~ 10.0      \* デレイ音の音色を調整します。
- [5] “ SPEED ”    0.100 ~ 10.00[Hz]      \* モジュレーションのスピードを調整します。
- [6] “ MIX ”      0.0 ~ 10.0      \* デレイ音のミックス量を調整します。

## 5. SWEEP DELAY(SWEEP DL) Mono In/Mono Out 1

同じく SDD-3000 のモデリング。エンベロープで DELAY TIME をコントロールすることができ、TIME を最小にして、FEEDBACK を上げると独特のフランジャー効果が作り出せます。通常のTIME 設定でも、LFO では得られない独特のモジュレーション効果が得られます。

- [1] “ TIME ”      26 ~ 2000[ms]      \* デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0      \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ”      1.0 ~ 10.0      \* デレイ音の音色を調整します。
- [5] “ SENS ”      0.0 ~ 10.0      \* ギターの音量に対する動作感度を調整します。
- [6] “ MIX ”      0.0 ~ 10.0      \* デレイ音のミックス量を調整します。

## 6. STEREO DELAY(ST DLY) Stereo In/Stereo Out 1

KORG製の24bit DIGITAL DELAY DL8000R。サンプリング周波数、DELAY TIME のワーブコントロールを除くとほぼ同一の回路です。完全ステレオ仕様なのでステレオのMOD, REVERB 出力の後に配置して使用すると更に効果的です。

## 7. CROSS DELAY(CROSS DL) Stereo In/Stereo Out 3

L R, R L にクロスフィードバックする設定の DL8000R です。

## 8. 2TAP DELAY(2TAP DLY) Mono In/Stereo Out 1

DELAY TIME を20ms ずらした 2 タップのDELAY を L/R に振り分けて、モノラルの入力をステレオ化する設定の DL8000R です。

- [1] “ TIME ” 1 ~ 4000[ms] デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0 \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ” 1.0 ~ 10.0 \* デレイ音の音色を調整します。
- [4] “ DUCKING ” 0.0 ~ 10.0 \* ギターの音量に対するダッキングの感度を調整します。  
 -ダッキング-:ギターを強く弾いたときにデレイ音の音量を自動的に下げ  
 てフレーズを際立たせる効果です。
- [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* デレイ音のミックス量を調整します。

## 9. RHYTHM DELAY(RHYTHM DL) Mono In/Mono Out 1

2 タップのDELAY を RHYTHM で設定した音符分の TIME に自動設定する、DL8000R の機能を持ちます。

- [1] “ TIME ” 1 ~ 4000[ms] デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0 \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ” 1.0 ~ 10.0 \* デレイ音の音色を調整します。
- [4] “ DUCKING ” 0.0 ~ 10.0 \* ギターの音量に対するダッキングの感度を調整します。
- [5] “ RHYTHM ” 1,2,..11 デレイタイムを四分音符としたときの、2タップのリズム・デレイを設定します。設定によっては1タップになります。
- [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* デレイ音のミックス量を調整します。

## 10.HOLD DELAY(HOLD DLY) Mono In/Mono Out 1

CONTROLペダルに“ HOLD DLY ”を割り当てると、DELAY 音をホールドすることができます。

- [1] “ TIME ” 1 ~ 8000[ms] デレイ・タイムを設定します。
  - [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0 \* フィードバックの量を調整します。
  - [3] “ TONE ” 1.0 ~ 10.0 \* デレイ音の音色を調整します。
  - [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 \* デレイ音のミックス量を調整します。
- CONTROLペダル HOLD DLY CONTROLペダルに“ HOLD DLY ”を選択すると、ペダルをONにした時点でデレイ音がホールドされます。

## 11.REVERSE DELAY(REVRS DL) Mono In/Mono Out 1

デレイ音が逆再生されるDIGITAL DELAY です。音符を長く伸ばしたレガート奏法で、非常に気持ちの良い(!?)効果を得ることができます。

- [1] “ TIME ” 26 ~ 4000[ms] デレイ・タイムを設定します。
- [2] “ FEEDBACK ” 0.0 ~ 10.0 \* フィードバックの量を調整します。
- [3] “ TONE ” 1.0 ~ 10.0 \* デレイ音の音色を調整します。
- [6] “ MIX ” 0.0 ~ 10.0 デレイ音とダイレクト音のミックス・バランスを調整します。10に設定するとデレイ音のみになります。

---

## F. REVERB(リバーブ)エフェクト

キャビネットの後ろに配置されるリバーブ系のエフェクトを設定します。11種類のリバーブ系エフェクトから選び設定します。

(\*)：エクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。

REVERB	TIME	LO DAMP	HI DAMP	PRE DELAY	SHAPE	MIX
SPRING 1	TIME	LODAMP	HIDAMP	PREDELAY		MIX
SPRING 2						
PLATE 1						
PLATE 2						
CHAMBER 1						
CHAMBER 2	1.0~10.0	0.0~10.0	0.0~10.0	0~100[ms]		0.0~10.0
ROOM 1						
ROOM 2						
HALL 1						
HALL 2						
GATE	TIME	LODAMP	HIDAMP	PREDELAY	SHAPE	MIX
	5~500[ms]	0.0~10.0	0.0~10.0	0~100[ms]	1,2	0.0~10.0

### 1. SPRING 1 Mono In/Stereo Out 1

ギターアンプに搭載されている、サーフ・ミュージックに最適な、スプリング・リバーブのモデルです。

### 2. SPRING 2 Mono In/Stereo Out 1

より密度の濃い残響をもつスプリング・リバーブです。

### 3. PLATE 1 Mono In/Stereo Out 1

こちらはスプリングの代わりに鉄板を振動させるタイプのリバーブユニットのモデルで、短めの残響に調整しています。立ち上がりの早い残響はパーカッシブなプレイに適します。

### 4. PLATE 2 Mono In/Stereo Out 1

密度の濃い残響を持つプレート・リバーブのモデリングです。

### 5. CHAMBER 1 Mono In/Stereo Out 1

かつてレコーディング・スタジオでは、残響を得るために特別に設計した部屋(エコー・チャンバー)にスピーカーとマイクを設置して残響を録音していました。このモデルでは落ち着いたサウンドのエコー・チャンバーを再現しています。

### 6. CHAMBER 2 Mono In/Stereo Out 1

明るいサウンドに設計されたエコー・チャンバーのモデルです。

### 7. ROOM 1 Mono In/Stereo Out 1

初期反射音を多く含む、一般的な部屋のリバーブモデルです。



## 8. ROOM 2 Mono In/Stereo Out 1

大きな部屋の残響をモデリングしています。

## 9. HALL 1 Mono In/Stereo Out 1

エコー成分を多く含むコンサート・ホールの残響をモデリングしています。

## 10. HALL 2 Mono In/Stereo Out 1

スムーズで密度の濃い残響を持つコンサート・ホールのモデルです。

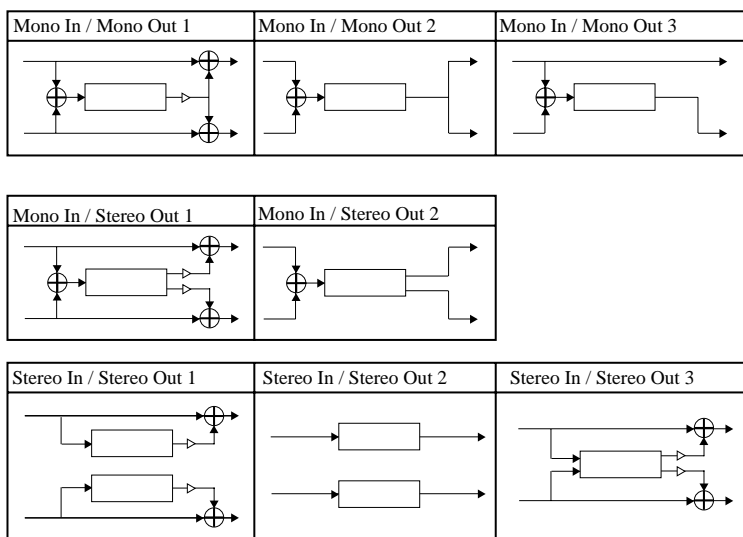
- [1] “ TIME ”            1.0 ~ 10.0    \* リバーブの持続時間を設定します。持続時間はリバーブのタイプによって異なります。
- [2] “ LODAMP ”        0.0 ~ 10.0    \* 低域の減衰量を調整します。
- [3] “ HIDAMP ”        0.0 ~ 10.0    \* 高域の減衰量を調整します。
- [4] “ PREDELAY ” 0 ~ 100[ms]    残響が始まるまでの初期ディレイを設定します。設定次第で、原音の輪郭を浮き上がらせることができます。
- [6] “ MIX ”            0.0 ~ 10.0    \* リバーブ音のミックス量を調整します。

## 11. GATE Mono In/Stereo Out 1

使い勝手の良い GATE風 REVERB です。パーカッシブなプレイに最適です。SHAPEを2に設定して MIX を 10 (エフェクトのみ) に設定すると、逆再生風の発音になります。

- [1] “ TIME ”            5 ~ 500[ms]    GATE の持続時間を設定します。
- [2] “ LODAMP ”        0.0 ~ 10.0    \* 低域の減衰量を調整します。
- [3] “ HIDAMP ”        0.0 ~ 10.0    \* 高域の減衰量を調整します。
- [4] “ PREDELAY ” 0 ~ 100[ms]    残響が始まるまでの初期ディレイを設定します。
- [5] “ SHAPE ”            1,2            GATE の形状を設定します。  
1: 通常のゲート。  
2: 逆再生風のゲート。
- [6] “ MIX ”            0.0 ~ 10.0    リバーブ音とダイレクト音のミックス・バランスを調整します。10に設定するとリバーブ音のみになります。

## BLOCK DIAGRAM



REVERB

# チューナー(バイパス、ミュート)

本機はオート・クロマチック・チューナーを内蔵しています。

このチューナーは基準ピッチAの周波数をA438Hz～A445Hzの範囲で調整(キャリブレーション)できます。

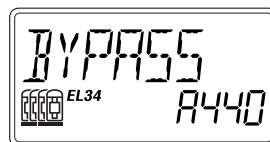
## チューニングの方法

1. [FX ON/OFF(TUNER)]スイッチ(3.7)を0.5秒間ほど長押しします。

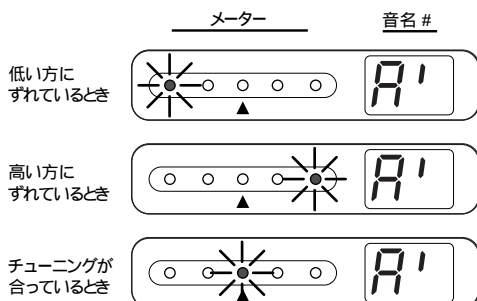
すべてのエフェクトが無効となるバイパスの状態になり、オート・クロマチック・チューナーが起動します。

ライブ中など音を出さずにチューニングしたい場合は、次のようにしてサイレント・チューニング・モードへ入ってからチューニングしてください。

[FX ON/OFF(TUNER)]スイッチを1.5秒間ほど長押しすると、サイレント・チューニング・モードになり、出力がミュートした状態でチューニングができます。



2. 接続したギターを弾くと、一番近い音名がバンク・ディスプレイに、メーターがチューナー・ディスプレイに表示されます。



音名は次のように表示されます。

C C# D D# E F F# G G# A A# B  
C C' d d' E F F' G G' A A' b

3. メーターを見ながらギターを微調整します。
4. チューニングが終わったら[FX ON/OFF(TUNER)]スイッチをもう1度押して、元のモードに戻ります。

**HINT** プログラムセレクトモードでチューナーを起動した場合は、プログラムセレクトペダルを押すとチューナーが解除され、同時にプログラムも変更されます。

---

## チューナーのキャリブレーション調整

本機の電源を入れると、内蔵チューナーは基準ピッチAの周波数が440Hz(コンサート・ピッチ)になります。この基準ピッチを変更すること(キャリブレーション)ができます。438Hz～445Hzの範囲で調整できます。

- ・ チューナー起動中はバリュー・ディスプレイに基準ピッチの周波数が表示されています。[ ]、[ ]ボタンを押して、438Hz～445Hzの範囲でこの基準ピッチを変更すること(キャリブレーション)ができます。

**NOTE** 変更したキャリブレーションは電源をオフにすると無効となり、再び電源をオンにすると自動的に440Hzになります。

---

# エクスプレッション・ペダルによるコントロール

---

## エクスプレッション・ペダルの設定

ToneLabSEは、ワウやボリューム以外にも、さまざまなエフェクトのパラメータをコントロールすることが可能なエクスプレッション・ペダルを2つ搭載しています。どのエフェクトをどのようにコントロールするかをプログラム毎に設定できます。

**HINT** エクスプレッション・ペダルにパラメータをアサインして操作することは、ツマミの代わりにペダルでエディットすることと同様です。このため、ペダルを操作したときに、EDITアイコンが点灯します。WRITEする場合も、そのときのペダルの位置の音色で書き込まれることとなります。ただし、エクスプレッション・ターゲットが"--OFF--"、“VOLUME”、“M/PITCH”、“D/INPUT”、“R/INPUT”ではエディットされません。

## エクスプレッション・ターゲットのクイックアサイン

エクスプレッション・ターゲットの設定を非常に簡単に行うことができる便利な方法を紹介しましょう。

アサインの例として[MODULATION]セクターで“PITCH SHIFTER”を選びます。ここでは効果を判りやすくするためにPITCH SHIFTERの初期化を行います。既に“PITCH SHIFTER”が選ばれている場合は、一度セクターで別のエフェクトを選択した後、あらためて“PITCH SHIFTER”を選びなおしてください。

1. PITCH SHIFTERのエディット中にボリュームツマミ[1]を動かすか、[◀]、[▶]スイッチを押して、ネームディスプレイに、[PITCH]と表示させると、[EXPRESSION]スイッチが点灯します。この状態で、[EXPRESSION]スイッチをホールド(1秒間押し)すると、ネームディスプレイに[COMPLETE]と表示されます。すると、エクスプレッション・ペダル1にPITCHパラメータがアサインされ、PITCH SHIFTの量をコントロールすることができます。さらに詳細な設定を行いたいときには、[EXPRESSION]スイッチを押して、ターゲット・レンジの最小値(“EXP1 MIN”ボリュームツマミ[2])、最大値(“EXP1 MAX”ボリュームツマミ[3])を調整します。  
同様に、エディット中に[EXPRESSION]スイッチが点灯しているときに[CONTROL]スイッチを1秒間押しすると、エクスプレッション・ペダル2に、現在ネームディスプレイに表示されているパラメータがアサインされます。

**NOTE** エクスプレッション・ターゲットに設定されているパラメータのエフェクト・タイプを変更するとターゲットが"--OFF--"になり初期化されます。(ただし、“A/\*\*\*\*\*”、“D/INPUT”、“R/INPUT”のときを除く)

**HINT** PEDALエフェクトのタイプを“VOX WAH”に設定したとき、エクスプレッション1に自動的に“P/MANUAL”(ワウの開き具合)が設定されます。このとき他の操作をせずにPEDALエフェクトを他のタイプに戻すと、ターゲット、MIN、MAXの設定も自動的に元に戻ります。(ただし、“P/\*\*\*\*\*”のときは、元に戻らず"--OFF--"になり初期化されます。)

**NOTE** エクスプレッション・ターゲットを変更するとMIN、MAXの値が初期化されます。

## エクスプレッション・ターゲットの設定

設定できる項目は以下の内容になります。

[EXPRESSION]スイッチを押して点滅させると、バリュートツマミ[1]～[6]で以下の項目を設定できます。

" *##### ": EXP1エクスプレッション・ターゲット(バリューディスプレイ:E1 表示)	バリュートツマミ[1]
" EXP1 MIN ": EXP1(エクスプレッション・ペダル1)ターゲット・レンジ(最小値)	バリュートツマミ[2]
" EXP1 MAX ": EXP1(エクスプレッション・ペダル1)ターゲット・レンジ(最大値)	バリュートツマミ[3]
" *##### ": EXP2エクスプレッション・ターゲット(バリューディスプレイ:E2 表示)	バリュートツマミ[4]
" EXP2 MIN ": EXP2(エクスプレッション・ペダル2)ターゲット・レンジ(最小値)	バリュートツマミ[5]
" EXP2 MAX ": EXP2(エクスプレッション・ペダル2)ターゲット・レンジ(最大値)	バリュートツマミ[6]

**NOTE** 上記の項目はプログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

クイック・アサイン同様、エクスプレッション・ペダル1にモジュレーションエフェクトPITCH SHIFTER の PITCH のコントロールを設定する方法を説明しましょう。

1. [MODULATION]セクターで、PITCH SHIFTERを選びます。ここでは効果を判りやすくするために PITCH SHIFTER の初期化を行います。既に PITCH SHIFTER が選ばれている場合は、一度セクターで別のエフェクトを選択したのち、あらためて PITCH SHIFTER を選びなおしてください。

**NOTE** エクスプレッション・ターゲットに設定されているパラメータのエフェクト・タイプを変更するとターゲットが "--OFF--"になり初期化されます。(ただし、“ A/\*\*\*\*\* ”、“ D/INPUT ”、“ R/INPUT ”のときを除く)

**HINT** PEDALエフェクトのタイプを“ VOX WAH ”に設定したとき、エクスプレッション1に自動的に“ P/MANUAL ”(ワウの開き具合)が設定されます。このとき他の操作をせずにPEDALエフェクトを他のタイプに戻すと、ターゲットの設定も自動的に元に戻ります。

2. [EXPRESSION]スイッチを押して点滅させます。
3. [▶]スイッチを押すか、あるいはバリュートツマミ[1]を回して、バリューディスプレイに“ E1 ”を表示します。
4. [ ]、[ ]スイッチを押すか、あるいはバリュートツマミ[1]を回して、ネームディスプレイに“ M/PITCH ”を表示させます。これで、エクスプレッション・ペダル1にPITCH SHIFTER の PITCH パラメータのコントロールが設定されます。

**NOTE** PITCHは他のパラメータとは異なり、エクスプレッションペダルでコントロールしたときにエディットされません。これはMIN、MAXを近い値に設定(ペダルによるピッチの変化量を少なく設定)したときでもピッチを滑らかに変化させるためです。

---

**NOTE** ターゲットのエフェクトが“ OFF ”の場合には何もコントロールされません。

エクスプレッション・ペダル・ターゲットは、下記のように表示されます。

“ \* /##### ” \* :ターゲット・カテゴリ、##### :ターゲット・パラメータ

<例>

“ --OFF-- ”	--- OFF	(何もコントロールしない)
“ VOLUME ”	---	ボリューム・ペダル
“ P/DIRECT ”	--- (* : P(ペダル))	ペダルエフェクト(OCTAVEなど)のDIRECT (原音のミックス量)
“ M/SPEED ”	--- (* : M(モジュレーション))	モジュレーションエフェクトのSPEED
“ D/INPUT ”	--- (* : D(ディレイ))	ディレイエフェクトの入力レベル
“ R/MIX ”	--- (* : R(リバーブ))	リバーブエフェクトのMIX (リバーブ音のミックス量)
“ A/VRGN A ”	--- (* : A(アンプ))	アンプ・モデルの [VR GAIN] (Aチャンネル)

ここに挙げた以外にも、各エフェクトモデル毎に決められた数多くのエクスプレッションターゲットを、2つのエクスプレッションペダルに自由にアサインすることができます。

必要があれば、さらに詳細な設定を行うことができます。

**NOTE** “ --OFF-- ”、“ VOLUME ”、“ M/PITCH ”、“ D/INPUT ”、“ R/INPUT ”ではエクスプレッションペダルをコントロールしたときパラメータはエディットされません。

5. バリュースマミ[2]を回して、ネームディスプレイに“ EXP1 MIN ”を表示します。ここでは、ペダルをMIN位置にしたときのPITCHの値を設定します。バリュースマミ[2]または [ ] [ ] スイッチで設定してください。

6. バリュースマミ[3]を回して、ネームディスプレイに“ EXP1 MAX ”を表示します。ここでは、ペダルをMAX位置にしたときのPITCHの値を設定します。バリュースマミ[3]または [ ] [ ] スイッチで設定してください。

エクスプレッション・ペダルを操作したとき、ターゲット・パラメータはここで設定した範囲で変化します。

同様にバリュースマミ[4]~[6]または [ ], [ ], [◀], [▶]スイッチを使って、エクスプレッション・ペダル2のエクスプレッション・ターゲット・パラメータを設定することができます(EXP2エクスプレッション・ターゲット設定時には、バリューディスプレイに“ E2 ”が表示されます)。

**NOTE** エクスプレッション・ターゲットを変更するとMIN、MAXの値が初期化されます。

7. [EXIT]スイッチを押して、元のモードに戻ります。

**NOTE** 保存しないと、本機のプログラム・メモリに書き込まれません。

## エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定

“ EXP1INIT ”エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定

“ EXP2INIT ”エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定

EXPRESSION スイッチが点滅中に[▶]スイッチを数回押すと、“ EXP1INIT ”設定画面が表示されます。

さらに[▶]スイッチを押すと“ EXP2INIT ”設定画面が表示されます。

“ EXP1 INIT ”は、エクスプレッション・ペダル1によるコントロール情報(ペダルの位置)を、プログラムを切り替え後も引き継ぐかどうかを設定します。(“ EXP2 INIT ”も同様です。)

[ ], [ ]スイッチで設定を変更してください。

“ OFF ”に設定した場合、プログラムを切り替えると同時にエクスプレッション・ターゲットに設定されているパラメータが現在のペダルの位置に応じて変化します。

“ ON ”に設定した場合、プログラムを切り替えた直後はプログラム保存時と同じサウンドになります(コントロール情報が初期化されます)。

EXITスイッチを押すとエディットが解除され、元のモードに戻ります。

**NOTE** “ EXP1INIT ”、“ EXP2INIT ”の設定はプログラムには保存されません。全プログラムに共通の設定となり、その設定は自動的に記憶されます。

## コントロール・ペダルの設定

プログラム毎にコントロールペダルで次のコントロールを設定することができます。

[CONTROL]スイッチを押して点滅させると、バリュースツマミ[1]で、コントロールするエフェクトを選択できます。

### 各エフェクトのON/OFF

- ・ “ I/ON OFF ” 外部エフェクトインサートのON/OFF
- ・ “ P/ON OFF ” ペダルエフェクトのON/OFF
- ・ “ A/ON OFF ” アンプモデルのON/OFF
- ・ “ C/ON OFF ” キャビネットエフェクトのON/OFF
- ・ “ M/ON OFF ” モジュレーションエフェクトのON/OFF
- ・ “ D/ON OFF ” デレイエフェクトのON/OFF
- ・ “ R/ON OFF ” リバースエフェクトのON/OFF

**NOTE** [CONTROL]スイッチLEDにオン、オフの状態が表示されます。

### TAP TEMPO によるパラメータの設定

- ・ “ MOD TAP ” モジュレーションエフェクトのSPEEDパラメータのTAP TEMPOによる設定
- ・ “ DLY TAP ” デレイエフェクトのTIMEパラメータのTAP TEMPOによる設定

**NOTE** [CONTROL]スイッチLEDが設定したTEMPOで点滅します。

---

## FACTOR バリューツマミ[2]の設定

MODULATIONエフェクトのSPEEDパラメータや、DELAYエフェクトのTIMEパラメータをコントロール・ペダルに割り当てたときは、コントロール・ペダルを2回踏む時間間隔でMODULATIONエフェクトのLFO SPEEDやDELAYエフェクトのDELAY TIMEが設定できます。このとき、FACTORパラメータ(バリューツマミ[2])の設定にしたがって、実際にペダルを踏んで設定した間隔の1/6, 1/4, 1/3, 1/2, 2/3, 3/4, 1, 4/3, 3/2, 2, 3, 4倍の長さで各パラメータが設定されます。

**NOTE** TAPの間隔は最大で10秒です。

**NOTE** MOD TAPまたはDLY TAP以外を割り当てた場合には、FACTORは無効になります。

**NOTE** コントロールペダルの設定を変更すると、FACTORは“ 1 ”に初期化されます。

## エフェクトのコントロール

- ・ “ FLN TRIG ” CLASSIC FLANGERのLFO START TRIGGER
- ・ “ ROT SPD ” ROTARY の SPEED SW
- ・ “ HOLD DLY ” HOLD DELAY の HOLD

**NOTE** 対象となるエフェクトが選ばれていない場合には、何もコントロールされません。

1. [CONTROL]スイッチを押して点滅させます。
2. [ ], [ ]スイッチを押すか、あるいはバリューツマミ[1]を回して、コントロール・ターゲットを選びます。
3. MOD TAP, DLY TAP を選択した場合は、[▶]スイッチを押すか、バリューツマミ[2]を回して、ネームディスプレイに“ FACTOR ”を表示します。ここでは、TAP した間隔に対する SPEED, TIME の比を設定します。例えば、ターゲットを DLY TAP、FACTORを“ 1-4 ”に設定した場合、TAP した間隔の 1/4 の長さでディレイタイムが設定されます。
4. [EXIT]スイッチを押して元のモードに戻ります。



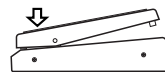
## ペダルの感度の調整

ToneLabSEのエクスペッション・ペダルのMin/Maxの設定が、それぞれ最小/最大であるにも関わらず、踏み込んだときにエフェクト効果や音量が最大にならない場合、また戻したときにエフェクト効果や音量が最小にならない場合は、次のように本機を操作してエクスペッション・ペダルが最適に動作するように感度を調整してください。

注意：感度を調整するときは、エクスペッション・ペダルを必ず手で操作してください。足で操作すると、正確に調整できないことがあります。

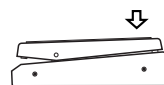
### エクスペッション・ペダル 1

1. 電源をOFFにします。
2. [EXPRESSON]スイッチと[CHAIN]スイッチを押しながら、電源を入れます。ネームディスプレイには [EXP1 MIN]と表示されます。
3. エクスペッション・ペダル1を手前にゆっくりと戻し、止まったらペダルから手を離します。



4. [GLOBAL]スイッチを押します。ネーム・ディスプレイに[EXP1 MAX]と表示されます。
5. エクスペッション・ペダル1をゆっくりと押さえ、止まったらペダルから手を離します。

**NOTE** 調整をキャンセルするときは、[EXIT]スイッチを押します。



6. 本機の[GLOBAL]スイッチを押します。ネームディスプレイに1秒間[COMPLETE]と表示され、その後通常の動作に移ります。感度が調整できなかったときは、ネームディスプレイに[ERROR]と表示されたあと[EXP1 MIN]と続けて表示されます。このときは、手順3から操作を行ってください。

注意：繰り返し操作しても感度が調整できないときは、本機が故障しているおそれがあります。お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

### エクスペッション・ペダル 2

1. 接続した機器の電源をOFFにします。
2. 本機の[CONTROL]スイッチと[CHAIN]スイッチを押しながら、電源を入れます。ネームディスプレイには [EXP2 MIN]と表示されます。上記3～6と同じ手順でエクスペッションペダル2の感度の調整を行ってください。

注意：繰り返し操作しても感度が調整できないときは、本機が故障しているおそれがあります。そのときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

# MIDIによるコントロール

MIDIはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。MIDI 機器同士をMIDI ケーブルで接続することで、異なるメーカーの電子楽器やコンピュータと演奏情報のやりとりが行えます。

本機は、MIDIを使って外部MIDI機器との間で次のことができます。

- 本機を操作して、外部MIDI機器のプログラムを切り替える。外部MIDI機器から本機のプログラムを切り替える。「プログラム・チェンジ」
- ペダルを操作して、外部MIDI機器をコントロールする。  
外部MIDI機器から本機の音量、エフェクトなどをコントロールする。「コントロール・チェンジ」
- サウンド・エディタなどを使用してパラメータをエディットする。「パラメータ・チェンジ」
- 本機のプログラム・データをバックアップ(保存)/リストア(読み込み)する。「プログラム・データのバックアップ(保存)/リストア(読み込み)」

**NOTE** 上記のコントロールを行うには本機と外部MIDI機器をMIDIケーブルで接続し、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。「MIDI機器/コンピュータとの接続」MIDIチャンネルを設定する」

**NOTE** ここでの各設定を変更すると、その値は自動的に記録されます。設定が済んだら、[EXIT]スイッチ(3.7)を押して元いたモードに戻ってください。

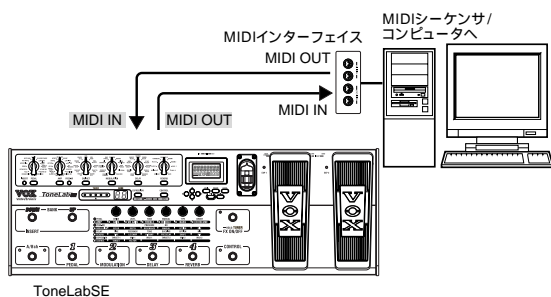
**NOTE** 外部MIDI機器が各MIDI情報を認識しない場合は、それぞれのコントロールは行えません。本機と各機器の「MIDIインプリメンテーション・チャート」を確認してください。

## MIDI機器/コンピュータとの接続

本機から外部MIDI機器をコントロールする場合は、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIシーケンサなどの外部MIDI機器から本機をコントロールする場合は、本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIシーケンサやサウンド・エディタなどと接続する場合は、通常、相互にデータをやりとりしますので、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子、本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をそれぞれMIDIケーブルで接続します。



**NOTE** コンピュータとToneLabSEを接続する場合は、MIDIインターフェイスが必要になります。

なお、USB-MIDIインターフェイス機器によっては、ToneLabSEのMIDIエクスクルーシブ・メッセージを送受信できない場合があります。

## **MIDIチャンネルを設定する (GLOBAL "MIDI CH")**

外部MIDI機器とデータをやりとりするときは、本機のMIDIチャンネルと外部MIDI機器のMIDIチャンネルを合わせます。以下の手順でMIDIチャンネルを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. ネーム・ディスプレイに“MIDI CH”を表示します。他のパラメータが選ばれているときは、[◀]、[▶]スイッチを押して表示してください。
3. バリユー・ツマミ[6]または[ ]、[ ]スイッチで本機のMIDIチャンネルを設定します。
4. 接続した外部MIDI機器のMIDIチャンネルを設定します。  
外部MIDI機器のMIDIチャンネル設定は、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

## **プログラム・チェンジ (GLOBAL "PCHG OUT")**

本機でプログラムを切り替えると、MIDI OUT端子からプログラム・チェンジ・メッセージが送信され、外部MIDI機器のプログラムが切り替わります。また、本機がプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、本機のプログラムが自動的に切り替わります。

ここでは、本機でプログラムを切り替えたときに、MIDI OUT端子からプログラム・チェンジ・メッセージを送信するか、しないかを設定します。

**NOTE** 本機で扱えないプログラム・チェンジ・ナンバーは無視されます。本機で扱える範囲については「MIDIインプリメンテーション・チャート」を参照してください。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [◀]、[▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“PCHG OUT”を表示します。
3. プログラム・チェンジ・メッセージを送信するかしないかを設定します。バリユー・ツマミ[6]または[ ]、[ ]スイッチで設定します。  
“OFF”：プログラム・チェンジ・メッセージを送信しません。  
“On”：プログラム・チェンジ・メッセージを送信します。

## **コントロール・チェンジ (GLOBAL "CCHG I/O")**

本機のEXPRESSIONペダル1、EXPRESSIONペダル2、CONTROLペダルなどの各コントローラを操作するとコントロール・チェンジ・メッセージを送信します。外部MIDI機器のコントロール・チェンジ・ナンバーに対応する機能をリアルタイムでコントロールすることができます。

また外部MIDI機器からコントロール・チェンジ・メッセージを受信すると、本機で操作するのと同じように本機がコントロールされます。

外部MIDI機器からコントロールできる機能については手順4を参照してください。

---

本機がコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するか、しないかを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [◀], [▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“ CCHG I/O ”を表示します。
3. すべてのコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するかしないかを設定します。バリュー・ツマミ[6]または[ ]、[ ]スイッチで選びます。  
“ On ”では送受信します。“ OFF ”では送受信しません。

**NOTE** ここでの設定が“ OFF ”のときは、手順4で個別にコントロール・ナンバーを設定してもすべてのコントロール・チェンジ・メッセージを送受信しません。

4. [◀], [▶]スイッチを同時に押して、コントロール・ナンバーを個別に設定する画面に切り替えます。各コントローラを[◀], [▶]スイッチを押して選びます。  
次の順番で切り替わります。  
“ EXP1 PDL ”: EXPRESSIONペダル1・コントロール  
“ EXP2 PDL ”: EXPRESSIONペダル2・コントロール  
“ CTRL PDL ”: CONTROLペダル・オン/オフ  
“ PEDAL FX ”: PEDALエフェクト・オン/オフ  
“ MOD FX ”: MODULATIONエフェクト・オン/オフ  
“ DELAY FX ”: DELAYエフェクト・オン/オフ  
“ REVRB FX ”: REVERBエフェクト・オン/オフ  
“ INSRT FX ”: 外部エフェクト・オン/オフ  
“ A/B CH ”: チャンネル A/B
5. 各コントローラごとにコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するかしないかを設定します。送受信する場合はコントロール・チェンジ・ナンバーを設定します。設定するコントローラを選び、バリュー・ツマミ[6]または[ ]、[ ]スイッチを使って設定します。  
“ OFF ”: コントロール・チェンジ・メッセージを送受信しません。  
“ CC00 ”~“ CC95 ”: コントローラを操作すると、設定したコントロール・チェンジ・ナンバー0~95でメッセージを送信します。また外部MIDI機器から設定したコントロール・チェンジ・ナンバーでメッセージを受信すると本機がコントロールされます。
6. [◀], [▶]スイッチを同時に押して、すべてのコントロール・チェンジ・メッセージの送受信を設定する画面に戻ります。

## **パラメータ・チェンジ (GLOBAL “SYEX OUT”)**

本機のツマミやスイッチを操作してパラメータの値を変更すると、システム・エクスクルーシブ・メッセージによってパラメータ・チェンジ等の情報を送信します。

本機のパラメータを外部に送信する場合は“ SYEX OUT ”を“ On ”に設定します。通常“ SYEX OUT ”を“ On ”にするのは、サウンド・エディタを使用するときです。

本機がパラメータ・チェンジを送信するか、しないかを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチを押します。
2. [◀], [▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“ SYEX OUT ”を表示します。
3. パラメータ・チェンジ等の情報を送信するかしないかを設定します。パリュウ・ツマミ[6]または [ ] [ ] スイッチで選びます。  
 “ OFF ”: パラメータ・チェンジ等の情報を送信しません。  
 “ On ”: パラメータ・チェンジ等の情報を送信します。

**NOTE** パラメータ・チェンジ等のシステム・エクスクルーシブ・メッセージを受信すると“ SYEX OUT ”の設定に関わらず、本機のパラメータやモード、プログラム番号が変わります。

## **プログラム・データのバックアップ(保存)/リストア(読み込み)** **(GLOBAL “DUMP CUR” , “DUMP ALL” )**

プログラムなど本機の全データはシステムエクスクルーシブ・メッセージとして送受信することができます。システムエクスクルーシブ・メッセージを外部機器との間で送受信することをデータ・ダンプといいます。データ・ダンプを行うと、MIDIデータ・ファイラやシステムエクスクルーシブ・メッセージが送受信可能なシーケンサなどの外部機器に、本機で作ったプログラムをバックアップ(保存)できます。必要なときに本機にリストア(読み込み)することによって、たくさんのプログラムを入れ替えて使用することができます。また、2台のToneLabSEを接続してプログラム・データをコピーすることができます。

プログラム・データの転送には2種類あり、1プログラム単位で送信する方法と、全プログラムを1度に送信する方法があります。全プログラムを1度に送信する場合は出力先の設定やMIDIに関する設定なども含む本機のすべてのデータが送られます。

**NOTE** データ・ダンプの送信は、“ SYEX OUT ”の設定に関わらず行うことができます。2台のToneLab間でプログラム・データをやりとりする場合は、“ SYEX OUT ”を“ OFF ”に設定することをおすすめします。“ SYEX OUT ”が“ On ”になっている状態でツマミ等を操作すると、もう一台のToneLabSEで意図しないパラメータが変わってしまうことがあります。

### **バックアップ(保存)**

1. 本機のMIDI OUTとデータ・ダンプを受信する機器のMIDI INを接続します。
2. 1つのプログラムだけを送信する場合は、プログラム・セレクト・モードで送信するプログラムを選びます。
3. [GLOBAL]スイッチを押します。
4. [◀], [▶]スイッチを押して、ネーム・ディスプレイに“ DUMP CUR ”または“ DUMP ALL ”を表示します。  
 “ DUMP CUR ”(カレント・プログラム・データ・ダンプ):  
 現在選んでいる1つのプログラムのデータを送信します。プログラムをエディット中(保存してい

---

ない状態)のときは現在の設定を送信します。

“ DUMP ALL ”(オール・データ・ダンプ): 本機のすべてのデータを送信します。

5. データ・ダンプを受信する機器がデータを記録できる状態にします。

**NOTE** 詳しくはデータ・ダンプを受信する機器の取扱説明書を参照してください。

6. 本機の[WRITE]スイッチを押すと送信を開始します。送信が終了すると“ COMPLETE ”を表示し、手順4の画面に戻ります。(“ DUMP ALL ”で送信している間は“ SEND ”と表示されます。)

**NOTE** データの送信中は、本機のスイッチ、ペダルやノブに触れないでください。また、絶対に本機の電源をオフにしないでください。

## リストア(読み込み)

1. 本機のMIDI INとデータ・ダンプを送信する機器のMIDI OUTを接続します。
2. 送信する側のMIDI機器と本機のMIDIチャンネルを合わせます。一度外部MIDI機器に送信したデータを再び本機で受信するときは、送信時のMIDIチャンネルに合わせてください。

3. データ・ダンプする機器からデータを送信します。  
全データ受信中は“ RECEIVE ”が表示され、正常に終了すると“ COMPLETE ”が表示されます。エラーが発生すると“ ERROR ”が表示されますので、送信し直してください。

**NOTE** 詳しくはデータ・ダンプを送信する機器の取扱説明書を参照してください。

**NOTE** データの受信中は、本機のスイッチ、ペダルやノブに触れないでください。また、絶対に本機の電源をオフにしないでください。

4. 1プログラム単位のデータを受信した場合は、保存先のバンクとプログラムを選び、保存してください。(p.21)

**NOTE** 保存しないと、本機のプログラム・メモリに書き込まれません。

**HINT** 全データを受信した場合は、すべてのデータが自動的に上書きされます。ただし、エディット中のデータ(エディット・バッファ)は変更されません。

---

# 工場出荷時の状態に戻す(再ロード)

---

本機のプログラムや、すべての設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

**NOTE** この操作を完了すると自分で作ったプログラムなど本機に保存してあったすべてのプログラムは消去され、出荷時のプログラムが読み込まれます。また、MIDIの設定も初期化されます。保存しておきたい設定がある場合は、データ・ダンプ等でデータをバックアップしてください。

1. [ ] [ ] [EXIT]の3つのスイッチを押しながら、[STANDBY]スイッチを押して電源を入れます。  
バンク・ディスプレイの“P”と、プログラムLED[1]～[4]が点滅し、ネーム・ディスプレイに“RELOAD?”と表示されます。押していたすべてのスイッチから手を離します。
2. 再ロードの作業を中止するときは[EXIT]スイッチを押します。
3. [WRITE]スイッチを押すと、ネーム・ディスプレイに“LOADING”が表示され、再ロードが始まります。  
再ロードが完了するとネーム・ディスプレイに“COMPLETE”が表示され、自動的にプログラム・セレクト・モードに切り替わります。

**NOTE** 再ロード中は、絶対に電源をオフにしないでください。

---

# 故障とお思いになる前に

---

故障かな?と思ったら、まず以下のことを確認してください。症状が改善されない場合は、お近くの販売店またはコルグ・サービス・センターまでお問い合わせください。

## 1. [STANDBY]スイッチをオンにしても電源が入らない

- リア・パネルの[~ AC9V]端子にAC/ACパワー・サプライが接続されていますか?
- コンセントにAC/ACパワー・サプライが接続されていますか?
- コンセントが故障していませんか?
- AC/ACパワー・サプライが損傷していませんか?

## 2. 音が出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- ギター・シールドが正しく接続されていますか?
- ギター・シールドが断線していませんか?
- リア・パネルのOUTPUT [LEVEL]ノブが小さい値になっていませんか?
- [GAIN], [TREBLE], [MIDDLE], [BASS], [VR GAIN], [CH VOLUME]の設定を確認してください。アンプ・タイプによっては[TREBLE], [MIDDLE], [BASS]の値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。  
またペダル・エフェクトを使用している場合は、DRIVE [1], LEVEL [3]の設定も確認してください。
- [DRIVE], [LEVEL], [VOLUME], [GAIN], [VR GAIN]などがアサインされたエクスプレッション・ペダルがMINの位置になっていませんか?
- ミュート操作を行っていませんか? [FX ON/OFF (TUNER)]ペダルを押して、ミュートを解除してください。

## 3. エフェクトがかからない

- 各エフェクトセレクトスイッチLEDが点灯していますか?  
LEDが消灯しているときはエフェクトがオフになっています。  
[MODEL]セレクトスイッチを押してエフェクトをオンにしてください。
- モジュレーションの DEPTH、ディレイ、リバープの MIX がそれぞれ小さい値になっていませんか?  
[MODEL]セレクトスイッチでエフェクトを選び該当するバリュー・ツマミを調整してください。
- バイパスしていませんか?  
[FX ON/OFF (TUNER)]ペダルを押してバイパスを解除してください。

## 4. ACOUSTIC の使用中に高音が歪む

- ドライブをかけすぎていませんか?
- 出力の大きいギター(ハムバックング・タイプのピックアップ)を使用していますか?  
ギターの音量を下げる、または[GAIN]の設定を下げてください。

## 5. ギター・アンプに接続した音が歪む、不自然な音をする

- “OUT SEL”が Ln (LINE)になっていませんか?
- [LEVEL]が上がりすぎていませんか?  
基本接続を参照して設定しなおしてください。



---

# 仕様

---

アンプ・タイプ数: 16

キャビネット・タイプ数: 11

エフェクト数

ペダル・タイプ: 16

モジュレーション・タイプ: 11

ディレイ・タイプ: 11

リバース・タイプ: 11

ノイズ・リダクション: 1

プログラム数: 96 (24バンクx 4チャンネル)

オーディオ入力

INPUT x 1

INSERT RETURN x1

オーディオ出力

OUTPUT x 2 (バランス/アンバランス TRS)

INSERT SEND x1

PHONES x 1

[LEVEL]ツマミ(OUTPUT、PHONES対応)

真空管

12AX7 (ECC83) x1

信号処理

A/D変換: 20bit

D/A変換: 20bit

サンプリング周波数: 44.1kHz

チューナー

測定範囲: A0 ~ C7 ( 27.5Hz ~ 2093Hz )

キャリブレーション: A=438Hz ~ 445Hz

その他

MIDI IN x 1、MIDI OUT x 1、~ AC9V x 1、STANDBYスイッチ

消費電力: 18W

外形寸法( W x D x H ): 710 x 249 x 76( mm )

重量: 6.2 kg

付属品: AC/ACパワー・サプライ 9VAC 3.0A

\* 仕様および外観は改良のため予告無く変更される場合があります。

# プログラム・リスト

NAME	PEDAL	Ach-AMP	Ach-CABINET	MOD	DELAY	REVERB
	INSERT	Bch-AMP	Bch-CABINET	EXP1	EXP2	CONTROL
1-1 DIARY	TUBE OD	TWEED 4x10	TWEED 4x10	CLASSIC CHORUS	ECHO PLUS	CHAMBER 2
	OFF	UK '80S	UK T75 4x12	M/SPEED	VOLUME	MOD ON/OFF
1-2 S-R-V	TUBE OD	BLACK 2x12	BLACK 2x12	CLASSIC CHORUS	MULTI HEAD	ROOM 1
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	R/INPUT	VOLUME	PDL ON/OFF
1-3 SATCH	VOX WAH	UK '90S	UK T75 4x12	CLASSIC FLANGER	ANALOG DELAY	PLATE 1
	OFF	UK '90S	UK T75 4x12	P/MANUAL	VOLUME	DLY ON/OFF
1-4 JIMIROTO	U-VIBE	BLACK 2x12	BLACK 2x12	CLASSIC FLANGER	MULTI HEAD	SPRING 2
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	P/SPEED	VOLUME	MOD ON/OFF
2-1 TELEBEND	COMP	TWEED 1x12	TWEED 1x8	PITCH SHIFTER	ECHO PLUS	PLATE 1
	OFF	TWEED 4x10	TWEED 1x8	M/PITCH	VOLUME	REV ON/OFF
2-2 CRUNCH	COMP	AC15TB	VOX AC15	MOD DELAY	ECHO PLUS	SPRING 2
	OFF	AC30TB	VOX AC30	D/TIME	VOLUME	DLY TAP
2-3 SOLO	TUBE OD	UK BLUES	UK H30 4x12	STEREO CHORUS	ECHO PLUS	PLATE 2
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	D/INPUT	VOLUME	DLY TAP
2-4 BOOMER	COMP	TWEED 1x12	TWEED 1x12	CLASSIC CHORUS	HOLD DELAY	SPRING 1
	OFF	UK '80S	VOX AC15	D/INPUT	VOLUME	HOLD DLY
3-1 JAZZMAN	COMP	TWEED 4x10	TWEED 4x10	STEREO CHORUS	ECHO PLUS	ROOM2
	OFF	BLACK 2x12	BLACK 2x10	R/MIX	VOLUME	PDL ON/OFF
3-2 FUNKYMAN	VOX WAH	TWEED 1x12	TWEED 4x10	FILTRON	REVERSE DELAY	SPRING 2
	OFF	AC15	VOX AC15	P/MANUAL	VOLUME	REV ON/OFF
3-3 FIRE	OCTAFUZZ	UK '80S	UK H30 4x12	DUO PHASE	REVERSE DELAY	ROOM 2
	OFF	UK '80S	UK H30 4x12	D/INPUT	VOLUME	PDL ON/OFF
3-4 AXIS	OCTAFUZZ	AC15	TWEED 1x8	CLASSIC FLANGER	REVERSE DELAY	SPRING 1
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	D/INPUT	VOLUME	DLY ON/OFF
4-1 TEXAST	COMP	BLACK 2x12	BLACK 2x12	TEXTREM	RHYTHM DELAY	SPRING 2
	OFF	AC30TB	VOX AC30	M/SPEED	VOLUME	MOD ON/OFF
4-2 UK BLUES	BOUTIQUE	UK BLUES	VOX AD412	STEREO CHORUS	ANALOG DELAY	SPRING 1
	OFF	UK BLUES	VOX AD412	R/TIME	VOLUME	REV ON/OFF
4-3 RECTOFLY	COMP	RECTO	UK T75 4x12	DUO PHASE	ECHO PLUS	SPRING 1
	OFF	RECTO	US V30 4x12	M/DEPTH	VOLUME	MOD TAP
4-4 TALKVOX	OCTAVE	UK 68P	UK H30 4x12	TALK MOD	SWEEP DELAY	PLATE 2
	OFF	UK MODERN	UK T75 4x12	M/MANUAL	VOLUME	PDL ON/OFF
5-1 ACOUSTIC VH	ACOUSTIC	AC15	TWEED 1x8	BI CHORUS	ECHO PLUS	CHAMBER 2
	OFF	BOUTIQUE CL	VOX AD412	P/BODY	VOLUME	REV ON/OFF
5-2 PDL REV	TREBLE BOOST	AC15TB	VOX AC15	MOD DELAY	CROSS DELAY	HALL 2
	OFF	AC30TB	VOX AC30	R/TIME	VOLUME	DLY ON/OFF
5-3 VH	TREBLE BOOST	UK 68P	UK H30 4x12	PITCH SHIFTER	ECHO PLUS	PLATE 2
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	M/PITCH	VOLUME	PDL ON/OFF
5-4 UNCHAIN	TUBE OD	US HIGAIN	UK T75 4x12	CLASSIC FLANGER	ECHO PLUS	ROOM 2
	OFF	UK MODERN	UK H30 4x12	M/RESO	VOLUME	FLN TRIG
6-1 ECBADGE	FAT DIST	UK 68P	UK H30 4x12	ROTARY	2 TAP DELAY	SPRING 2
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	M/SPEED1	VOLUME	ROT SPD
6-2 SHOW ME	ACOUSTIC	UK '80S	UK T75 4x12	TALK MOD	ECHO PLUS	ROOM 2
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	M/MANUAL	VOLUME	PDL ON/OFF
6-3 TORNADO	B/O PHAS	AC15	TWEED 1x8	ROTARY	MOD DELAY	SPRING 2
	OFF	UK 68P	UK H30 4x12	M/SPEED1	VOLUME	MOD ON/OFF
6-4 FILTRON	OCTAVE	BOUTIQUE OD	VOX AD412	FILTRON	STEREO DELAY	PLATE 1
	OFF	US HIGAIN	US V30 4x12	M/DEPTH	VOLUME	PDL ON/OFF
7-1 MR.CLEAN	COMP	BOUTIQUE CL	VOX AD412	BI CHORUS	STEREO DELAY	SPRING 2
	OFF	BLACK 2x12	BLACK 2x12	M/MIX	VOLUME	PDL ON/OFF
7-2 PDL ECHO	COMP	UK 68P	UK H30 4x12	CLASSIC CHORUS	ECHO PLUS	SPRING 1
	OFF	UK '80S	UK T75 4x12	D/TIME	VOLUME	DLY TAP
7-3 UCLA	COMP	BLACK 2x12	BLACK 2x12	STEREO CHORUS	ANALOG DELAY	SPRING 1
	OFF	BOUTIQUE OD	UK H30 4x12	M/MIX	VOLUME	DLY TAP
7-4 THRASH	AUTO WAH	UK MODERN	UK T75 4x12	STEREO CHORUS	ANALOG DELAY	ROOM 2
	OFF	UK MODERN	US V30 4x12	D/MIX	VOLUME	DLY TAP
8-1 SPACEMOD	COMP	BOUTIQUE CL	VOX AD412	MOD DELAY	ECHO PLUS	CHAMBER 1
	OFF	TWEED 4x10	BLACK 2x10	M/MIX	VOLUME	DLY TAP
8-2 ROTOMAN	SUPER OD	TWEED 1x12	TWEED 1x12	ROTARY	STEREO DELAY	SPRING 1
	OFF	BLACK 2x12	BLACK 2x10	M/SPEED1	VOLUME	ROT SPD
8-3 VULGAR	TREBLE BOOST	US HIGAIN	VOX AD412	MOD DELAY	STEREO DELAY	PLATE 2
	OFF	RECTO	UK H30 4x12	M/MIX	VOLUME	DLY ON/OFF
8-4 SPOOKY	TREBLE BOOST	BOUTIQUE CL	VOX AC30	BI CHORUS	ECHO PLUS	HALL 1
	OFF	AC15	VOX AC15	R/INPUT	VOLUME	MOD ON/OFF

デフォルト選択チャンネル

オフ・エフェクト

# 索引

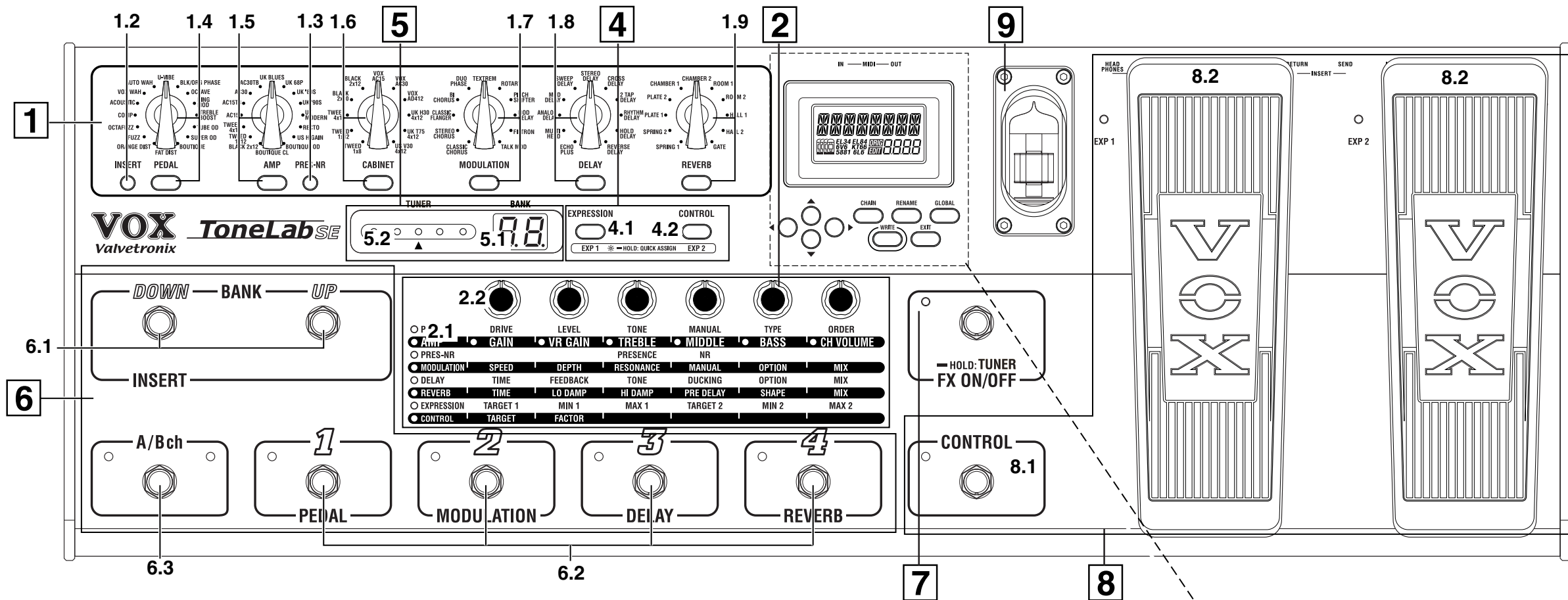
<b>記号</b>		<b>O</b>		<b>W</b>		<b>ホ</b>	
1OCTAVE	36	OPEN	35	WRITE	21	保存	21
2OCTAVE	36	[ORIG]アイコン	21				
<b>A</b>		<b>P</b>		<b>ア</b>		<b>マ</b>	
AC15	24	PCHG OUT	57	アンプとキャビネットの 組み合わせ	33	マスター・ボリューム	23
AC15TB	25	PEDAL	35			<b>リ</b>	
AC30	25	PEDAL FX	58	<b>エ</b>		リストア	60
ACOUSTIC	35	PEDALエフェクト	34	エクスプレッション・ペダ ル	50		
AMPモデル	22	POLARITY	35	エフェクトON/OFF モード	15		
ATTACK	34, 35	<b>R</b>					
AUTO WAH	35	RECTO	28	<b>オ</b>			
<b>B</b>		RELOAD?	61	オート・クロマチック・ チューナー	48		
BASS	22, 35	RENAME	20	音作り	18		
BLACK 2x10 (BLK 2X10)	31	REVERBエフェクト	46	オリジナル・アンプのサ ウンド	23		
BLACK 2x12 (BLK 2X12)	29, 32	REVRB FX	58	オリジナルのトーン・コ ントロール	22		
BODY	35	<b>S</b>		オリジナル・バリュー	21		
BOUTIQUE CL (BTQ CL)	28	SENS	34, 35	<b>キ</b>			
BOUTIQUE OD (BTQ OD)	28	Sound Editor	2	キャビネット	31		
<b>C</b>		SPEED	35	キャリブレーション	49		
CABINETモデル	31	SYEX OUT	58	<b>ケ</b>			
CC	58	<b>T</b>		ゲイン	22		
CCHG I/O	58	TAP SW	58	<b>コ</b>			
CH VOLUME	23	TREBLE	22, 35	工場出荷時の状態	61		
CHAIN	20	TWEED 1x12 (TWD 1X12)	29, 31	コントロール・チェンジ	57		
CLOSE	35	TWEED 4x10 (TWD 4X10)	30, 31	<b>サ</b>			
COMP	34	<b>U</b>		サイレント・チューニン グ・モード	48		
<b>D</b>		U-VIBE	35	サウンド・エディタ	58		
DELAY	43	UK 68P	27	<b>セ</b>			
DELAY FX	58	UK H30 4x12 (UK H30)	32	接続	12, 56		
DELAYエフェクト	43	UK MODERN (UK MODRN)	27	<b>チ</b>			
DEPTH	36	UK T75 4x12 (UK T75)	32	チューナー	48		
DIRECT	36	UK '80S	27	<b>ナ</b>			
DUMP ALL	60	UK '90S	27	名前	20		
DUMP CUR	59	US HIGAIN (US HI-G) 28		<b>ハ</b>			
<b>E</b>		US V30 4x12 (US V30)	32	バックアップ	59		
EXP PDL	58	<b>V</b>		パラメータ・チェンジ	58		
<b>G</b>		Valve Reactor	3	バルブ・カバー	10		
GAIN	23	VOL PDL	58	バルブ・リアクター	3		
<b>L</b>		VOX AC15 (AC15)	32	<b>フ</b>			
LEVEL	34	VOX AC30 (AC30)	32	プレゼンス	22		
<b>M</b>		VOX AD412 (AD412)	32	プログラム・セレクト・ モード	15		
MIDDLE	22	VOX WAH	35	プログラム・チェンジ	57		
MIDI	56	VR GAIN	23				
MIDI CH	57						
MIDIチャンネル	57						
MIX	36						
MOD FX	58						
MODエフェクト	38						

ToneLabSE MIDI インプリメンテーション・チャート

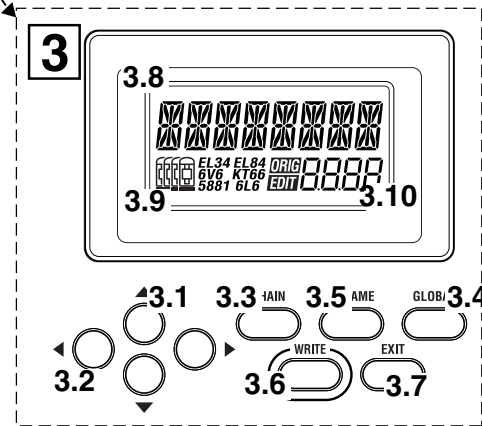
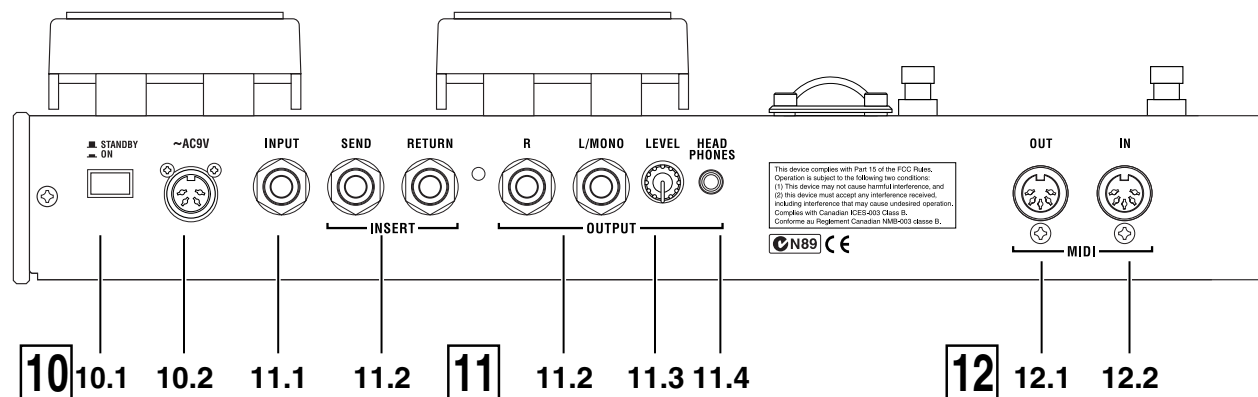
ファンクション...	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル 電源 ON 時 設定可能	1 - 16 1 - 16	1 - 16 1 - 16	記憶される
モード 電源 ON 時 メッセージ 代用	× × *****	3 × ×	
ノート ナンバー : 音域	× *****	× *****	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	× ×	× ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・バンド	×	×	
コントロール チェンジ 0 - 95			エフェクト・コントロール *C
プログラム チェンジ : 設定可能範囲	0 - 95 *****	0 - 95 0 - 95	*P
エクスクルーシブ			パラメータ・コントロール プログラム・データ・ダンプ *E *1
: ソング・ポジション コモン : ソング・セレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム : クロック : コマンド	× ×	× ×	
その他 : ローカル ON / OFF : オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : リセット	× × × ×	× × × ×	
<b>備考</b> *P: GLOBAL "PCHG OUT" が On のとき送信する。 *C: GLOBAL "CCHG I/O" が On のとき、コントローラごとの設定に従って送受信する。 *E: GLOBAL "SYEX OUT" が On のとき送信する (リクエスト・メッセージへの応答については "SYEX OUT" の設定に関わらず送信する)。 *1: 本機専用のメッセージ以外に、デバイス・インクワイアリーに対応する。			

モード 1 : オムニ・オン、ポリ                      モード 2 : オムニ・オン、モノ                      : あり  
 モード 3 : オムニ・オフ、ポリ                      モード 4 : オムニ・オフ、モノ                      x : なし

# トップ・パネル



# リア・パネル



This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation. Conforms with Canadian ICES-003 Class B. Conforme au Règlement Canadian NMB-003 classe B.

N89 CE

